

大阪教育大学 連合教職大学院

The United Graduate School of Professional Teacher Education

大阪の教育力を結集し、次世代教員リーダーを養成する



Contents

教職大学院とは.....	4
大阪教育大学連合教職大学院の 6 つの特色	5
大阪教育大学大学院 連合教職実践研究科がめざすもの.....	6
教育委員会のメッセージ.....	7
理念と教育目的.....	8
3 つのポリシー.....	9
養成する人材像.....	10
コース紹介	
学校マネジメントコース.....	11
教育実践コーディネートコース.....	12
教育実践力開発コース.....	13
教育課程.....	14
授業科目概要（抜粋）	15
Pick Up ! 大阪教育大学連合教職大学院の実習と実践課題研究 ...	18
教職大学院における取組み・取得可能な免許状.....	20
在学生・修了生の声.....	22
修了生インタビュー.....	24
担当教員.....	27
入試関連データ・アクセス.....	30
教職大学院の年間行事予定.....	31

確かな理論に裏打ちされた 実践力で教育を創る

経済的格差の拡大、家庭や地域教育力低下、少子高齢化等、学校を巡る社会的状況の変化は教育への多様なニーズを発生させており、学校が対応すべき課題は多様化・複雑化する一方です。同時に、この間の世界的な動向であるニュー・パブリック・マネジメントの導入による教育行政の改革は、各自治体や学校現場に自律性を求める方向に力を働かせてきています。こうした中で、学校で働く教員に必要とされる資質・能力、あるいはまた学校組織が全体として持つべき資質・能力の高度化が求められています。全国 53 の大学で展開している教職大学院は、こうした状況において、教員養成と教員研修の双方を現代化する象徴的事業として拡大してきています。

本学でも、多くの教員を輩出し、したがって大阪の教育界に大きな影響を与えている関西大学、近畿大学とともにこうした新しい時代の養成と研修を、大阪において創出したいと考え、平成 27 年度に連合教職実践研究科を立ち上げました。このパンフレットを手にとっていただいた皆様には、本研究科において、次世代の学校や教員に必要な資質・能力がどのように育成されようとしているか、基本的な事項をご確認いただければ幸いと考えております。

私たちの授業は常時公開しております。どのような講義がなされているか、どのような人たちが進学し、どのような雰囲気か、まずは天王寺キャンパスまで見学にいらしてください。みなさんを心より歓迎いたします。

連合教職実践研究科主任

森田英嗣



教職大学院とは

◆ 教職大学院とは

近年、子どもたちの学ぶ意欲の低下や社会意識・自立心の低下、社会性の不足、いじめや不登校、家庭や地域の教育力低下、発達障害の子どもの増加など、学校教育の抱える課題が複雑化・多様化する中で、こうした変化や諸課題に対応し得る高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた力量ある教員が求められています。

こうした中、教員養成教育の改善・充実を図るため、高度専門職業人養成に特化した専門職大学院として創設されたのが教職大学院制度です。



複雑化・多様化する教育課題に対応することのできる
学び続ける教員の養成が求められています。

◆ 教職大学院の特徴

教職大学院は専門性の高い教員を養成することを目的としており、その特徴としては一般的に以下のようなものがあげられます。

- ・ 理論と実践を融合した教育内容・方法
- ・ 4割以上の実務家教員による実践的な指導法
- ・ 学校や教育委員会と連携した大学院運営
- ・ 組織的なFDや外部評価による改善システムの構築など



◆ 大阪教育大学連合教職大学院

これまで取り組んできた大学院修士課程における教員養成・現職教育の成果を踏まえながら、新しいシステムによる教育課程と指導体制を構築し高度の専門的な能力及び優れた資質を有する教員を育成・輩出することで社会からのデマンド・ニーズに対応していくことを目的として、関西大学、近畿大学との連合により、次ページにある大阪教育大学ならではの魅力（特色）をもった教職大学院を開設しました。



大阪教育大学連合教職大学院の6つの特色

1. 大阪の教育力を結集

→ P6・7 へ

教員養成を主たる目的とした国立の大阪教育大学と、これまで教員養成の重要な役割を果たしてきた大阪の有力私立大学である関西大学、近畿大学の3大学の連携による大学院です。また、大阪府・大阪市・堺市の各教育委員会とも連携し、大阪の教育力を結集した“オール大阪”の体制で教育研究を推進していきます。

連携による具体的な効果としては、①各大学が有している教育研究資産の共有②私立大学附属学校等を含めた多様な学校実習のフィールド③大阪の教育課題に対応したカリキュラム構成 等を実現しています。

2. 教職経験に応じたコース制の導入

→ P10 へ

学校マネジメント、教育実践コーディネート、教育実践力開発という3つのコースを設定し、教職経験に応じた学びを進めることが可能です。それぞれのコースでは、スクールリーダー、ミドルリーダー、若手リーダーという教師像に基づき、それに必要とされる力量の獲得に資するコース科目を用意しています。

3. 理論と実践の融合を図るカリキュラムの提供

→ P14 へ

大学院生が専門職としての教師に必要とされる力量を獲得し、さらに発展させることができるカリキュラムを提供します。そのために、大学キャンパスでは、教育課程、学習指導法、生徒指導や教育相談、学級経営と学校経営等について、その理論や実践動向等を学ぶ科目を体系的に用意しています。また、学校実習等においてそれらを実践的に探究して、教職に求められる実践的指導力を高めていくよう、理論と実践の融合を図るカリキュラムを構築しています。

なお、これらの科目においては、研究者教員と実務家教員がペアで担当し、複眼的な視点で授業を実施しています。

4. 指導主事錬成プログラムの設置

→ P21 へ

教育委員会の指導主事やその候補者を対象とするプログラムです。昼間は教育委員会や教育センターで働き、夜間に本研究科で、教育委員会や教育センターでの実務の企画・運営に関する方法論等を学びます。具体的には、行政研修の企画・運営や学校に対するコンサルテーションの手法等を会得することができます。

5. すぐれた教員による確かな指導

→ P27 へ

教職大学院の講義や実習では、3つの大学に所属する18名の教員（9名の研究者教員と9名の実務家教員）が大学院生の指導を担当します。研究者教員は、それぞれの専門分野の学術研究に関する数多くの業績を有する、学術組織のリーダー的存在です。加えて、学校現場や教育行政との共同プロジェクト等の豊富な経験も有しています。実務家教員は、大阪府内の学校や教育行政に長く勤務し、その教育問題の解決に尽力してきました。大学院生にとって、よき教職のモデルです。これらのすぐれた教員による確かな指導によって、大学院生が教職に必要とされる実践的指導力や探究力等を高めていきます。

6. 通いやすい立地条件、学びやすい講義時間

→ P30 へ

就学キャンパスは、大阪教育大学天王寺キャンパスです。当キャンパスは交通至便な天王寺駅から徒歩約10分の場所に位置し、約1時間の移動時間で大阪府内の多くをカバーしています。また、現職教員等の場合は、勤めながら（原籍校等）の学校実習も可能としており、大学での講義開始時間（18時）と併せて、学びやすい環境を準備しています。

大阪教育大学大学院 連合教職実践研究科がめざすもの

今日、教育現場は、ICT 活用等、教育ツール・技術がめざましく進歩する一方で、学校が直面する課題は日々多様化且つ深刻化しています。大阪教育大学連合教職大学院は、このような時代に必要とされる、①学部卒院生の、より実践的な指導力・展開力を備えた新しい学校づくりの有力な担い手への養成、②現職教員院生の、確かな指導理論と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダーへの養成を目的としており、大阪の中核的教員養成機関である大阪教育大学と、専門職人材の養成に社会的評価の高い関西大学・近畿大学が、文字どおり力を合わせて教員養成の高度化に取り組む連合大学院です。大阪府・大阪市・堺市との強力な連携関係の下、絶えず「大阪の教育現場ニーズに応え得る“人財”」の涵養に尽くすとともに、広域拠点型教育大学を基幹校とする連合大学院に相応しく、大阪府内外から広く学生を受け入れています。

連合教職大学院で学ぶ濃密な2年間は人生においては通過点であり、瞬く間に過ぎ去っていくことでしょう。しかし、ここで築く仲間との強い絆や高度な実践力は、修了後も長く続いていく教員人生において、必ずや心強い財産となります。みなさまのご入学を心よりお待ちしております。



大阪教育大学長
栗林 澄夫



関西大学長
芝井 敬司

「人間の定義」というテーマがあります。フランスの哲学者パスカルが述べた「考える葦」が有名ですが、それ以外にも「人間は言葉を操る動物である」とか「人間は遊ぶ存在である」（ホイジンガーの「ホモ・ルーデンス」）といった表現を用いて、人間が他の生き物とは違って独自に有する特質をすくいあげ、他ならぬ私たちを定義してみようという試みです。

こうした議論の伝統に従えば、私たち教育を重んじ教育に心を砕きながら人生を生きることを選んだ者は、「人間は教育する存在である」と言い切ってもよいのかもしれませんが。DNAによって自動的にプログラムされた生物の行動や一生とは違い、人間はきわめて長い教育期間を経て、さまざまな経験と知識を身につけて、ようやく一人前の人間として成熟し、この社会に誕生することになります。それゆえ人間にとって、教育は必要にして不可欠な本質的要素なのです。連合教職大学院で学ぶすべての人が、そう自覚してくれることを願って、皆さんに心からのエールをお送りします。

大阪教育大学大学院連合教職実践研究科（連合教職大学院）が平成27年4月にスタートし、順調に歩み始めたことは、この上ない喜びであります。

「教員の資質向上」については、中央教育審議会答申における「修士レベル化」をはじめとする議論や、教育再生実行会議における「これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について（第7次提言）」数々の議論が交わされ、一方、「今後の学制等の在り方について（第5次提言）」では、小学校・中学校・高等学校教育の在り方についての議論が交わされ、近い将来、6・3・3制教育の見直しにも繋がるものと考えます。

このように教育制度改革が急速に進む中、教職員に期待されるものも多面化し、なお一層の多様性・柔軟性が求められる時代が迫ってきております。

近畿大学からは毎年約200名の教員を輩出しており、この中から「次代の教職のリーダー」を養成することが本学にとっても急務と考えています。

連合の3大学をはじめ、教職志望のみなさまと共に、大阪から「新たな次代の教職のリーダー」を生み出していきたいでしょう。



近畿大学長
塩崎 均

教育委員会のメッセージ

大阪府教育センター所長 山崎 政範 様

情報化やグローバル化など急激な社会の変化に伴い、子どもたちに必要な資質・能力を育むためには、学校が社会や世界と接点を持ちつつ、多様な人々と連携・協働しながら学ぶことができる開かれた環境づくりを進めることが不可欠です。そのため、学ぶ意欲の低下や社会性の不足などの課題やいじめ、不登校などの生徒指導上の課題、支援教育の充実への対応など、複雑化・多様化する諸課題に対応しうる高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた力量ある教員が求められてきています。このような背景を踏まえ、昨年度末に大阪教育大学大学院連合教職実践研究科を修了した一期生は校長のリーダーシップに基づく学校のマネジメント体制や地域を支えるスクールリーダーとして活躍することが期待されます。大阪府教育センターとしても特に現職教員修了者の学びや研究成果を広く府内に還元すべく、研修講師として招聘するなど積極的な人材活用を行っていく所存です。



大阪市教育センター所長 岡田 和子 様



子どもを育む社会環境が多様に変化し、変化に伴って教育が担う役割も多様化してきています。教員を志し、若手教員となりさらに教職経験 10 年目を経過した中核教員へと経験を積み重ねていく過程で、教育に関するスキルであったり、勤務校や目の子どもに何をすべきか課題をじっくりと考えたり、自分自身の教育に対する考えを見直す等、教員にとって大変有意義な学びの時間がここにはあり、これからの教育を進めるうえで本大学院の取り組みに大いに期待するところであります。

コースの一つに、学校マネジメントがありますが、管理職養成と思われる受講生には是非とも、教員の立場での組織マネジメントの必要性を、学級経営という視点や研究推進の視点で考えることがこれからの教育には大切なスキルとなりますのでマネジメント力についても学んでほしいと思います。

今後さらに深く教育を研究される方にとって多様な感覚や多様な知識、多様な情報を吹き込む機関としての連合教職大学院に大いに期待しております。

堺市教育センター所長 谷野 敏子 様

教員の大量退職等の影響から、年齢構成や経験年数の不均衡が生じ、学校組織において自然に行われてきた知識や技術の伝達が困難になってきています。そんな中、連合教職大学院における、理論と実践の往還による教員の資質向上や学び続ける教員の育成、さらには高度な専門性と幅広い実践力を兼ね備えた次世代教員のリーダー養成には大いに期待を寄せているところです。本市においても、教職大学院を修了した教員が、学校園において校内研修を活性化させ、学力向上に寄与したり、各研修会での発表を通して、研究の成果を全市に広めたりするなど活躍しています。今後も、連携を深め、教員が自身のキャリアステージの一つとして、連合教職大学院での学びを選んでほしいと願っています。



多様な連携協力校

大阪教育大学連合教職大学院では、学校実習科目における実習校として、連合 3 大学の附属学校に加え、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会の協力の下、多様な連携協力校（小学校 17 校、中学校 15 校、高等学校 16 校）での実習が可能となっています。

また、現職院生は、基本的には原籍校での実習となっており、学校現場のほか、教育委員会や教育センター等で実習を行う場合もあります。

理念と教育目的

大阪教育大学大学院連合教職実践研究科の教育上の理念は、教育委員会や学校現場との密接な連携の下での教員養成や現職教育を通じて、次世代の教育及び社会の発展に寄与することです。この理念を実現するために、これまで取り組んできた大学院修士課程における教員養成・現職教育の成果を踏まえながら、新しいシステムによる教育課程と指導体制を構築し、高度の専門的な能力及び優れた資質を有する教員の養成のための教育を行うことを本研究科の目的としています。

この理念や目的を踏まえ、本研究科は大阪教育大学を基幹大学として、関西大学、近畿大学との連合組織により大阪教育大学内に設置します。3大学が連合で教職大学院を組織することにより、各大学の実績と人的・物的資源を結集しながら、大阪における教員養成・現職教育の高度化に寄与する展望が開かれるものと期待しています。

デマンド・ニーズへの対応

背景・課題

- * 社会システムの急激な変化の中、子どもたちの学ぶ意欲や自立心の低下、社会性の不足、深刻ないじめや不登校など、複雑・多様化した学校教育の課題が山積している。
- * 大阪を中心とする現在の教員構成は40代を中心とした中堅教員層が薄くなっており、今後の学校管理職や教員組織の中核となるスクールリーダーの養成の必要性が高まっている。また、若年化傾向が見られる指導主事等の力量形成についても、その必要性が指摘されている。

連合教職大学院

現職教員院生：学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすための確かな指導理論と高度で優れた実践力・応用力を備えた中核の中堅教員として活動する力を養成。

学部卒院生：実践的な指導力・展開力を備える新しい学校づくりの有力な担い手として自ら実践に積極的に取り組み、将来的に学校や地域の教育を牽引できる新任教員として協働する力を養成。

教員の育成・輩出

実践的知識・技能を豊かに有する教員

汎用的なスキルや総合的な人間力を基盤としつつ、学習指導、生活指導にわたって子どもに関わり、そのニーズを把握し、それに合致した働きかけを展開するための実践的知識・技能を備える教員。

自ら学び続けることができる教員

新しく出現する教育課題に対して適切かつ効果的に対応するため、実践的知識・技能を拡充し続ける「自ら学び続ける」ことができる教員。

同僚や他の専門家等と協働できる教員

学校現場で生じる様々な課題に対応するためには教職員が協働して問題解決にあたる必要があり、子どもたちの成長に責任を負う教師集団として、同僚と学びあい、学校として組織的に問題解決に参画する教員。また、同時に保護者や地域住民、スクールカウンセラー等の多職種の専門家と連携して様々な課題を解決していく協働性を持った教員。

学校や地域の教育を組織的に牽引する教員

学校は、個人の力量に依存することが多かったこれまでのあり方から、組織の力量を高めそれを活用するあり方へと変化する必要があり、組織の一員として働く視座と方法を会得し、それを牽引するためのリーダーシップに関する実践的知識・技能に長けた教員。

3つのポリシー

◆ アドミッション・ポリシー Admission Policy

アドミッション・ポリシーとは

入学者受入れに関する方針のことで、本研究科の教育理念、目的、特色等に応じて、受験生に求める能力、適性等についての考え方をまとめた基本的な方針であり、それらを選抜方法や出題内容等に反映しています。

本研究科のアドミッション・ポリシー

- ・学校や地域の指導的・中核的な教員として高度で優れた実践力の獲得をめざす現職教員
- ・新しい学校づくりの担い手として自ら学び続けることで実践的指導力の獲得をめざす人

◆ ディプロマ・ポリシー Diploma Policy

ディプロマ・ポリシーとは

修了認定・学位授与に関する方針のことで、本研究科の教育理念・目的に基づき、どのような力を身に付けた者に修了を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるものです。

本研究科のディプロマ・ポリシー

所定の単位を修得し、教職に関する実践的知識・技能を拡充するための視点と方法を獲得するとともに、高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に有する人材と認められた者に学位を授与する。

◆ カリキュラム・ポリシー Curriculum Policy

カリキュラム・ポリシーとは

教育課程編成・実施の方針のことで、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのようなカリキュラムを編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針です。

本研究科のカリキュラム・ポリシー

学校教育の全体像を俯瞰できるような幅広い実践力や課題解決力や応用力を培い、教職に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に養成するため、カリキュラムは以下の科目で編成・実施する。

- (1)高度な専門性を有する教員を養成するための基礎的素養を修得する共通科目
- (2)変化する教育環境に対応するために、様々な教育のあり方を俯瞰的な視点で把握するための体験的基盤を確立する学校実習科目
- (3)各コースの特徴を踏まえ、その特徴を伸ばすことを目的とするコース科目
- (4)自ら学校実践の現場における課題を設定し、共通科目、コース科目、学校実習科目での学びと関連させながら学びを進め、最終的に実践課題研究報告書にまとめることを目的とする課題研究科目



養成する人材像

本研究科では、「実践的知識・技能を豊かに有する教員」「自ら学び続けることができる教員」「同僚や他の専門家等と協働できる教員」「学校や地域の教育を組織的に牽引する教員」を養成することを目的としています。現職教員院生に対しては、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすための確かな指導理論と高度で優れた実践力・応用力を備えた中核的中堅教員として活動する力を養成します。学部卒院生に対しては、実践的な指導力・展開力を備える新しい学校づくりの有力な担い手として自ら積極的に取り組み、将来的に学校や地域の教育を牽引できる新任教員として協働する力を養成します。これらを実現するため、3つのコースと1つのプログラムを用意しています。

連合教職実践研究科 高度教職開発専攻 30名（専門職学位課程） School of Advanced Professional Development in Education			
コース	入学定員	対 象	養成する人材像
学校 マネジメント	5	現職教員等 勤務経験 8年以上	教育実践の実績を積んでおり、さらに組織運営の役割を担う経験を持った現職教員等を対象としています。本コースの履修者は、学校の組織マネジメントに関する理論的な知識に加え、分析力、判断力、調整力などの実践的なマネジメント力を修得します。 修了後は、学校経営や教育行政において管理職の役割を果たすことができる人材として学校教育に貢献していくことをめざします。
教育実践 コーディネート	10	現職教員等 勤務経験 3年以上	教育実践の実績を積んでいる現職教員等を対象としています。本コースの履修者は、教職に関わる理論と実践を結び、授業研究、カリキュラム開発や生徒指導の方法論を修得します。 修了後は、教員組織をコーディネートし、教員集団の実践力形成に中心的な役割を果たし、学校や地域の研修や課題解決の活動をリードする中核的教員としての役割を果たすことのできる人材として学校教育に貢献していくことをめざします。 当該コースでは、経験の浅い指導主事を対象として、教育委員会や教育センター等で働きながら、研修・指導に関する方法論や課題解決力を修得し、地域の教育における将来の中核的指導者となるための力量の形成をめざす人材養成プログラム（指導主事錬成プログラム）を用意しています。
教育実践力開発	15	学部卒学生等 一種免許状取得者	小・中・高等学校一種免許状を持つ学部卒学生等を対象としています。コース履修者は、多様な児童・生徒の実態に基づいた教育課程及び授業の構想・展開・省察力、そしてこれからの学校に必要な協働による課題解決力を核とした教育実践力を修得します。 修了後は、変化する時代に対応し、教育実践を力強く編み出していく人材として、学校教育に貢献していくことをめざします。

学校マネジメントコース

学校をつくり動かすリーダーシップ ー学校マネジメントの知識と能力をもつためにー

学校マネジメントコースは、教育実践を積み、組織運営の役割を担う経験を持った現職教員等を対象とし、自ら学び続けることによって、「同僚や他の専門家等と協働して、学校や地域の教育を組織的に牽引する教師」を養成することを目的としています。

現在の学校は、大量退職時代の影響により、学校運営の中核となるミドルリーダーや学校管理職の役割を担うことのできる教員が不足していると言われています。今、学校に強く求められるのは、いわば上からの統率力をもとにしたリーダーシップではなく、同僚や学校外の専門家等と協働して「チームとしての学校」をつくり、保護者とともに子どもたちに寄りそう教育活動を展開するスクールリーダーです。

本コースでは、学校や地域において指導的・中核的な役割を果たすために必要な学校の組織マネジメントに関する理論的な知識に加え、ワークショップ形式など様々な形態の授業によって、学校をつくり動かすための分析力、判断力、調整力などの実践的な技能を修得します。修了後は、学校経営や教育行政において管理職の役割を果たす人材や、管理職を確実に支えることができる人材として学校教育に貢献していくことをめざします。



コース科目一覧

学校戦略論、学校組織開発論、スクールリーダーシップ論、学校安全と危機管理、教育改革と学校改革、学校コミュニティ論、学校組織マネジメント

● 入学の動機と実際入学してみて

実践を中心とした教員経験から、理論への憧れと期待があり、教職大学院への入学を決意しました。

マネジメントコースで自分の実践を大きく変えたのが「学校組織開発論」です。組織的な実践の意味やメカニズム、協働化へのプロセス等を学び実践することで、自校でも大きな成果を上げました。限られたメンバーの中で、それぞれが自律的に持ち味を発揮し最大の効果を上げることは、運営の面だけでなく、メンバーの幸せにも重要だと感じます。



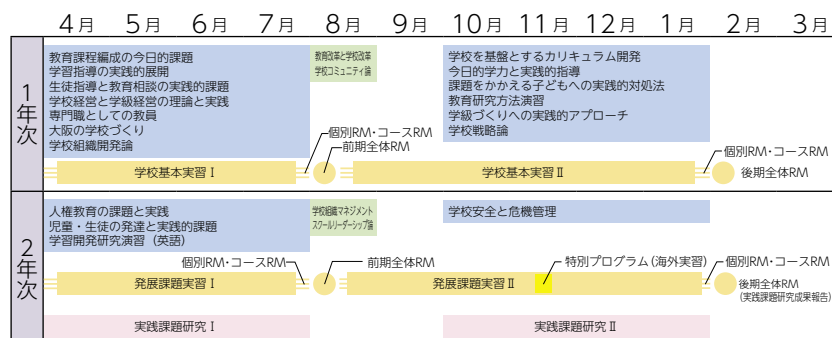
木田 哲生さん
平成 29 年 3 月修了
堺市教育委員会勤務

● 在学中の『読売教育賞』受賞と今後について

自分でもびっくりです。でも決して私だけの力ではありません。私の研究は、医師、心理士、保健師、幼保小中高の教員、保護者、地域住民、児童生徒等、が登場するとともに、学問についても教育学、医学、カウンセリング、心理学、人間行動学、教育経営学等を取り入れました。大学院で学んだ様々な理論がベースとなっています。多くの「人」や「もの」とつながれたことが受賞の要因ではないかと思えます。

今後も研究を継続し、日本や世界の教育に良い影響を与え、平和で幸福な社会づくりに貢献することが私の夢です。

● 2年間の履修カリキュラムスケジュール



教育実践コーディネートコース

教育現場にコミットするコーディネートコース ー新しい学校づくりにこたえるミドルリーダーの養成ー

現在、新しい学校づくりをめざした教職員の職能開発や学校の組織的成長を促進するミドル・リーダーが求められています。

教育実践コーディネートコースでは、教育現場で起こっている問題や課題を解決することをめざして学び、実践や研究に結びつけます。例えば子どもの学力向上、いじめ予防や不登校児童生徒への支援、教師一人一人の力を活かした協働体制づくりや教師の能力を高める研修のマネジメントなどが課題となり、その解決のための実践と研究に取り組みます。

教育実践コーディネートコースは現職教員を対象としていますので、基本的には教育現場で勤務しながらの学習になります。その中で学ぶ理論や知識と教育現場での自分の経験を結びつけることで、これまでに行ってきた自身の実践について違った視点からとらえることができるようになります。このような新しい視点や知識の獲得は、教師としての力量を高め、専門職としての成長へとつながります。

働きながらの学びは大変ですが、それを支えてくれる校種や専門性の違う新しい仲間と出会い、教師として互いに刺激し合いながら学ぶことができます。



コース科目一覧

校内研修のマネジメント、校内研修のコンサルテーション、行政研修の企画・運営、生徒指導の心理と方法、児童・生徒の発達と実践的課題、子どもの問題行動に対する実践的対処法

● 入学の動機と実際入学してみて

小学校の教師になり、10年が過ぎました。大学卒業の時から、大学院に進学したいという気持ちはありましたが、小学校に勤務して課題を見つけてから進学したいと考えていました。学校の研究教科は国語でした。今まで課題と感じていた国語科の授業づくりを明確にしたいという思いと、変化の激しい社会で必要となる力の育成について研究したいと思い教職大学院に進学しました。大阪教育大学の連合教職大学院の授業は夜間に開講されているので、小学校に勤務しながら教職大学院で学べるので進学を決めました。

教職大学院というと、大学の先生方も学生も学問のことばかり話をされていて、固いイメージがありました。実際に入学してみると、ユーモアのある先生ばかりで楽しく過ごすことができました。先進的な教員を育てる教職大学院の授業はアクティブ・ラーニングを取り入れたもので、大学の学びだけでなく勤務校の小学校の授業にも生かしたいと思うものも多くあり、学びが大きかったです。教職経験のある学生とストレートマスターの学生とが交流する機会が多く、授業が終わってから食事に行くこともありました。



流田 賢一さん

平成 29 年 3 月修了
大阪市小学校勤務

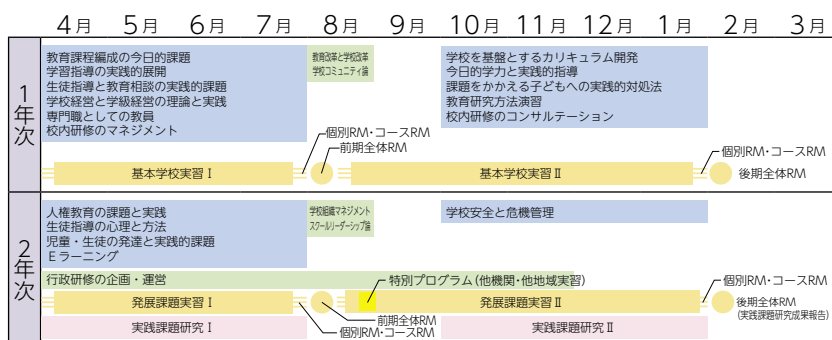
● コーディネートコースと今後について

コーディネートコースでは、校内で研究を進めていくために必要な力をつけることができました。今年度は研究主任として、教職大学院で学んだことを生かして進めていこうとしています。人との出会いが大きく、研究の方向性を大学の先生と相談させていただいたり、教職大学院のメンバーと近況報告をしったりして自分の学びを深めることができ、勤務校の研究に生かすことができるようにしています。

また、コーディネートコースの授業以外に他のコースの授業も履修できるため、これからの教員生活で必要になる「ICT 環境の活用」と「学校安全と危機管理」の授業を受けました。ICT では先進的な事例をプロジェクトで学び、勤務校の実践に生かしました。学校安全は、実際の事例から教員としての心構えや行動について学びました。また、発展課題実習の特別プログラムで宮城県を訪問し、教育長や教育委員会の方、複数の学校を見学し、震災教育をはじめ他府県の教育施策を学ぶことができました。

今後は子どもたちの学びが充実するために、本校の研究を先生方と協働して作り上げていきたいです。大学院で学んだことを生かして、子どもたちが幸せに豊かに生活できるように、多くの方と学びあえる教員になっていきたいです。

● 2 年間の履修カリキュラムスケジュール



教育実践力開発コース

教師としてのスタートに備えつつ、誰にも負けない個性を磨く

「教師になる」ことをめざすだけにとどまらず、「教師として何を成し遂げるか」を考えるコースです。本コースでは、自ら学び続けることによって将来の中核的中堅教員として成長するための基礎的な資質能力を獲得することを目的としています。

そのため、教育実践力開発コースでは、授業の設計・実施・評価の様々な手法を学び、その手法を授業の中で活かせるように構築したパフォーマンス課題で達成度を確認します。

また、困難を抱えた子どもを包摂する社会的・制度的な仕組みを学ぶとともに、大阪の課題として必要とされている特別なニーズのある子どもの教育について、主要な障害種別ごとの基本的課題を理解して教育方法を修得します。

さらに、理科教員不足、ICTを活用した教育の推進やグローバル化に対応した教育の展開に資する内容の科目を履修して、新しい学校づくりに参画できるような教員へと成長することを支援します。



コース科目一覧

教育評価の理論と方法の実践的探究、学級づくりへの実践的アプローチ、社会的包摂のための教育の実践的探究、特別ニーズ教育の理論と実践、学習開発研究演習（英語）、学習開発研究演習（理科）、国際教育比較実践交流、Eラーニング、ICT環境の活用、道德教育の理論と方法、特別活動の理論と方法

●入学の動機と実際入学してみて

私は「すべての子どもの学びを保障したい!」という気持ちがありました。インクルーシブ教育から数学の教科教育まで興味があることを溢れるほど学ぶことに熱中しています。また、最前線で教育課題に立ち向かおうとする現職教員の先生方と机を並べて議論することに喜びとともに、その子どもへの思いに圧倒されています。

教職大学院では、学校実習という実践の場があります。自分の思いと真正面から向き合い、実践することができる、またそれは独りよがりなもので終わるのではなく、現場でどのような作用があるのかじっくりと突き止めることができます。「参加しているけど、内容はよくわからない」という子どもの困り感に理論にはどんな要因や解決策があるのか、現場の先生方はどのような手立てを用いているのかなど、1つの疑問に対して様々な角度で考える視点を育てることができます。

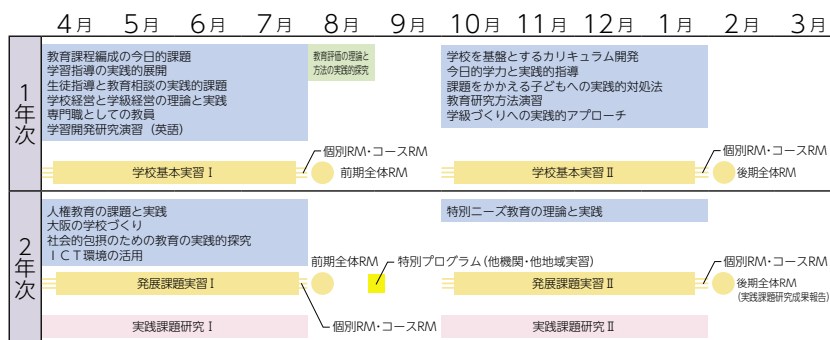
教職大学院は「実践的な学び」と「理論的な学び」ができることが魅力の1つです。この2つの学び方を得るために、私は2つの柱を持っています。「自分が知りたいことの明確化」と「そのために何をすべきか考えて行動すること」です。目まぐるしく変化を遂げる教育現場に対応していくためには知識や情報をどれだけもっているかではなく、それらを駆使してどうすることができるかという能力が必要となっていきます。そして、そんな学び方や学ぶ姿勢を体得できるのがこの2年間の価値だと思います。

自分で努力・模索する場として教職大学院は最良の環境です。なぜなら、自分のしたいようにアクションできるからです。教育界の最前線で活躍される教授陣、学校の第一線で子どもと向き合いよりよくしていきたいと一生懸命学び続ける現職教員、そして互いを高めあう学部卒生と素敵な人たちに囲まれ、その周りには大阪の教育を取り巻く学校や機関があります。つながりや関係づくり、信頼を獲得するのは自分の力量の見せどころです。



岡 雅美さん
近畿大学理工学部卒
教育実践力開発コース2年

●2年間の履修カリキュラムスケジュール（2年次後期の履修予定を含む）



教育課程

連合教職大学院において、大学院生は、1年次に、教職に関わる基本的な領域に関する科目を履修して、教育に関わる理論や実践動向等を学びます。また、1年次から2年次にかけて、コース科目を履修して、教職経験に応じて必要となる能力・資質を磨きます。これらの科目においては、必修科目に加えて、多様な選択科目が提供され、個々の大学院生が、学習ニーズに応じて自らの学びを構成することが可能です。さらに、連携協力校で実施される学校実習科目においては、そこでの臨床経験を通じて実践的指導力を確かなものにするとともに、教育現場の課題に探究的に迫ります。そして、これらの3種類の学びを「課題研究」によって集約し、学び続ける教員としての自己を追究する姿勢を確立できます。

これらの科目は、研究者教員と実務家教員がペアで担当し、複眼的な視点で授業が企画・運営されます。また、座学よりも、観察、討論、模擬授業、ワークショップ等の体験的な学びを重視しています。

	必要単位	開 講 科 目		備 考	単位数	必修選択	開講期
共通科目	二〇単位	教育課程の編成実施	教育課程編成の今日的課題	共通基礎	2	必	1
			学校を基盤とするカリキュラム開発	発展応用	2	選	2
		教科等の実践的指導法	学習指導の実践的展開	共通基礎	2	必	1
			今日的学力と実践的指導	発展応用	2	選	2
		生徒指導、教育相談	生徒指導と教育相談の実践的課題	共通基礎	2	必	1
			課題をかかえる子どもへの実践的対処法	発展応用	2	選	2
		学級経営、学校経営	学校経営と学級経営の理論と実践	共通基礎	2	必	1
			大阪の学校づくり	発展応用	2	選	集
		学校教育と教員の在り方	専門職としての教員	共通基礎	2	必	集
			教師力と学校力	発展応用	2	選	4
学校実習科目	一〇単位	教育研究方法演習		共通基礎	2	必	2
		人権教育の課題と実践		共通基礎	2	必	3
		基本学校実習Ⅰ			2	必	1
		基本学校実習Ⅱ			2	必	2
		発展課題実習Ⅰ		課題研究と連動	3	必	3
コース科目	十二単位	発展課題実習Ⅱ		課題研究を深化	3	必	4
		学校マネジメント	学校戦略論	(※)	2	必	2
			学校組織開発論	(※)	2	必	1
			スクールリーダーシップ論	(※)	2	必	集
			学校安全と危機管理	(※)	2	必	4
			教育改革と学校改革		2	選	集
			学校コミュニティ論		2	選	集
			学校組織マネジメント		2	選	集
		教育実践コーディネート	校内研修のマネジメント		2	必	1
			校内研修のコンサルテーション		2	必	2
			行政研修の企画・運営		2	必	集
			生徒指導の心理と方法		2	必	3
			児童・生徒の発達と実践的課題		2	選	3
			子どもの問題行動に対する実践的対処法		2	選	集
		教育実践力開発	教育評価の理論と方法の実践的探究		2	必	2
			学級づくりへの実践的アプローチ		2	必	2
			社会的包摂のための教育の実践的探究		2	必	3
			特別ニーズ教育の理論と実践		2	必	4
			学習開発研究演習（英語）		2	選	1
			学習開発研究演習（理科）		2	選	1
			国際教育比較実践交流		2	選	2
			Eラーニング		2	選	3
			I C T環境の活用		2	選	3
			道徳教育の理論と方法		2	選	3
			特別活動の理論と方法		2	選	3
科研課題	四単位	実践課題研究Ⅰ			2	必	3
		実践課題研究Ⅱ			2	必	4

(※) 指導主事錬成プログラムにおける指定選択科目。ここから2科目4単位を履修することに加え、教育実践コーディネートコースの必修コース科目4科目8単位を履修することでプログラムの修了を認定します。

授業科目名	共通科目（必修） 【学習指導の実践的展開】
担当教員	岡博昭教授・寺嶋浩介准教授・山手隆文准教授
授業内容	この授業においては、基礎的・基本的学力の確実な修得を実現するための、多様な授業の実践的手法をその理論と共に説明できることを目指しています。またそれらの手法を、実際の授業の場面で活用することを通して、自らのレパートリーの一つに組み込むと共に、その特徴を実証的に考察し、論じることができるということをねらいにしています。 授業では、講義や議論を通して、複数の授業の実践的手法とその理論的背景を学びます。また、現職教員院生と学部卒院生が混成グループを構成し、各グループで特徴的な手法を盛り込んだ授業を計画し、学校で実践することを通して、それらの手法の特徴を実証的に考察していきます。 この授業を通して、学部卒院生は理論を基盤とした授業実践力の向上を図ることができます。また現職教員院生は、普段行っている授業について理論的な視野から言語化することを通して、授業づくりに関する知見を将来的に校内の他の教員に伝えることができる力を身につけることができます。
授業科目名	共通科目（必修） 【生徒指導と教育相談の実践的課題】
担当教員	家近早苗教授・餅木哲郎教授
授業内容	本講義は、学校現場における子どもの心理的・発達的問題の基礎的理論を講義し、およびそれに基づく対処方法について、理論的・実践的検討を、ワークショップ形式も取り入れながら行っていきます。具体的には、「生徒指導とは何か」という原点を確認した上で、最新の研究知見に基づいた諸問題のメカニズム、および今学校現場で実際に起こっている事例を紹介し、問題の背景をより的確に把握する視点を身につけることをめざします。合わせて、経験の違う受講者相互のグループディスカッション等を通じて、様々な問題に関して多面的な見方があることを知り、自分の考え方を振り返り、高めあう機会も併せて提供します。また、「不登校」「いじめ」「学級が機能しない状態」などの生徒指導上の個別課題への具体的な取り組み（援助サービス）を学びます。



授業科目名	共通科目（必修） 【専門職としての教員】
担当教員	富田福代教授・中西修一教授・田中満公子教授
授業内容	この科目は、共通科目の「第1領域：教育課程の編成実施」「第2領域：教科等の実践的指導法」「第3領域：生徒指導、教育相談」「第4領域：学級経営、学校経営」という、4つの領域を有機的に架橋して教員として省察する「第5領域：学校教育と教員の在り方」の中心的科目です。 公教育である学校教育の使命と、その担い手である教員の専門職理論に立ち返りながら、個々の学生が追究する課題を明確化します。教職のライフコースの視点で、生涯にわたり「学び続ける教員像」の具現化として、自らの成長につながる段階を追った目標や活動を具体的に描くとともに、個々の学生が教職大学院の2年間の学びの計画を構想します。また、4領域の共通の学びを基にした議論を通して、経験や視点が異なる学生間で個々の学びを共有し高め合い、学校組織に位置づく専門職としての教員のアイデンティティを形成します。  
授業科目名	コース科目（学校マネジメントコース・必修） 【学校組織開発論】
担当教員	米津俊司教授・深野康久特任教授
授業内容	本講義は、学校について組織論の考え方をもとに考察します。組織としての学校は、①社会や地域の動きと連動しながら、②児童・生徒を教育（育てはぐくむ）目的のために、③学校ごとに目標をもち、④教職員のコミュニケーションを通じた協働によって機能するよう、⑤意図的に構成・調整されるシステムをもつ、⑥社会的な存在であるといえます。このことについて、受講生がこれまでの実践で獲得した経験知・実践知と、政策・施策の展開から得られた行政知、そして研究の積み重ねから得られた研究知・理論知を比較整理し考察することにより、学校組織のマネジメントに必要な資質・能力を育成します。 具体的には、まず、学校組織とはどのような特徴があるか考察します。校種や地域によって学校組織の様態やその経営方法が様々であることを、受講生自身の学校を事例として比較考察します。次に、学校組織を活性化させる方法について、先行する実践や研究があることを、文献講読を通じて学びます。その上で、我が国の代表的な学校組織開発論の論考を読み込むとともに、実践事例を検討し、学校組織をマネジメントする技量を高めます。最後に、所属校等の実態を踏まえた組織開発案を作成します。 本講義では、自らの実践知をもとにした検討とともに、文献を読み込み解釈することが重要な学修方法です。その結果、学校をマネジメントする基本的な考え方や技法の修得に加えて、重要な情報収集のツールのひとつである文献検索と読解力・応用力が身に付きます。  

授業科目名	コース科目（教育実践コーディネートコース・必修） 【校内研修のマネジメント】
担当教員	木原俊行教授
授業内容	たとえば「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」を学校として組織的に推進するためには、校内研修の充実が不可欠です。本講義を履修すると、現職教員たる受講生は、校内研修の企画・運営に関する理論とそれを実践化する手法を身につけられます。そのために、まず、わが国の校内研修の特徴等を、テキストの講読を通じて、歴史的に、また、国際比較を通じて考察します。これらによって、今日、ミドルリーダーが校内研修を企画・運営する際に満たさねばならない原則を確認します。同時に、グループ協議等を通じて受講生の経験を交流し、それらの原則を満たすための方法とその多様性についても検討します。 次いで、受講生に校内研修の企画・運営に関するモデルと手続きを会得してもらいます。それは、授業研究、校内研修のテーマ設定、そのための組織編成や年間計画の策定、研究協議会の進行、研究紀要の作成等に関するものです。その際には、受講生の所属校の校内研修の実態を評価したり、全国の学校の校内研修のすぐれた事例を収集・分析したりします。 この講義のゴールでは、それまでに培ってきた校内研修の企画・運営に関わる枠組みを用いて、受講生の所属校等の校内研修を点検・評価し、その改善を図り、次年度に研究計画を策定し、発表します。これまでにこの講義を履修した現職教員の受講生たちは、この研究計画を羅針盤にして、履修後に、所属校の校内研修の企画・運営をアップグレードしています。  
授業科目名	コース科目（教育実践力開発コース・必修） 【社会的包摂のための教育の実践的探究】
担当教員	森田英嗣教授・餅木哲郎教授・庭山和貴特任准教授
授業内容	教育実践力開発コースの2年次の必修科目です。授業は3つのステージで進みます。第1ステージでは、マイノリティ、障がい、貧困等によって不利な状況にある児童・生徒、不登校、非行等によって教育を保障されにくくなっている児童・生徒を包摂するための学校以外で行われている支援・教育および制度的な仕組みについて講義や文献を通して理解を深めます。第2ステージでは、受講生が分担して本授業科目が指定する適応指導教室、オルタナティブスクール、児童自立支援施設、児童養護施設、特別支援学校等の機関で実習を行い、その経験を共有化します。第3ステージでは、校内での教員以外の専門職との連携の在り方を、実際に専門家をゲスト講師にむかえて体験的に知る機会を持ちます。この授業を通して、児童・生徒に様々な背景があることを理解できる教員、「チーム学校」の一員として働ける教員としての資質・能力の形成を期待しています。  

教職大学院の実習

● 教職大学院の実習とは ～ 2 年間で 300 時間以上の現場実習～

教職大学院における実習は、学部段階における「教育実習」とは本質的に異なり、本研究科ではこれを「学校実習」と呼んでいます。学校実習は、院生自身が学修計画書に基づき、研究テーマや目的、内容・方法を明確に計画して実施する実習であり、大学院と実習校の往還、理論と実践の往還を実感すると同時に、実践的な課題解決能力を育成することをめざしています。そこで、教職大学院における実習では、「共通科目」や「コース科目」で身につけた理論や技能を実習の場で具体的に生かし、また、実習で得た知識や臨床経験を「共通科目」や「コース科目」の学びによって意味づけることによって、「学校実習科目」と「共通科目」や「コース科目」の学びを互いに関連づけていきます。

こうした学校実習は、学部段階の教育実習と以下の点で異なります。

- ① 学校の教育活動全体について総合的に体験し考察する
連携協力校等との連携を密にし、学校経営、学級経営、生徒指導、教育課程編成をはじめ学校の教育活動全体について総合的に体験し、考察する機会となっています。
- ② 自ら学校における課題に主体的に取り組むことのできる資質能力を培う
単に学部段階における教育実習の延長ではなく、これを通じて得た学校教育活動に関する基礎的な理解の上に、長期間にわたり、教科指導や生徒指導、学級経営等の状況を経験することにより、自ら学校における課題に主体的に取り組むことのできる資質能力を培うものです。現職院生については、実習は、自らの教育実践とは異なる実践を客観的に観察し、体験・参画することにより、自らの実践を相対化し、その上で教職大学院においてさらに伸ばすべき自らの資質能力の研究・育成を計画する機会となります。
- ③ 実習先の教育活動に寄与する
教職経験の有無を問わず、免許状を有する者による実習であり、この点においても異なります。免許状を持った者が、教員の指導の下、一定期間計画的・継続的に学校教育活動に参画するものであり、当該学校における教育活動に寄与することも期待できます。特に、現職教員である学生の実習であれば、自己の資質能力を高めることにより学校教育を向上させることに熱意と意欲ある教員が当該実習校における教育に参画することにより、学校にとっても教育活動を支える一員として期待されています。

● 特別プログラム

2 年次において実施される発展課題実習においては、1 年間のうち 30 時間について、特別プログラムを履修することが可能です。これらのプログラムを履修することで、児童・生徒の教育に関わる多様な現場を体験し、今後の教育実践の見方や考え方を広げることが出来ます。なお、プログラムの特質上、選考を行うものもあります。

- ① 「他学校・他機関プログラム」
様々な教育機関における児童生徒に対する多様な学びの在り方、困難な課題をかかえた児童生徒に対するサポートの在り方を学びます。これらの実習を通して、自らの経験を相対化して位置づけるとともに、大阪における教育の課題を学び、教育現場への実践的な対応力を磨くことをねらいとしています。
- ② 「他地域・海外学校プログラム」
本学の国際交流協定締結大学及び関係する学校や国内他地域の学校を対象とした短期の実習を行います。その企画や調整などの海外交流・国内交流における様々な準備活動についても授業の一環として扱い、学生が主体的に参画するようなプログラムを実施します。
- ③ 「行政研修プログラム」
大阪府、大阪市、堺市などの教育委員会で開催されている研修等の一部に参加、あるいは参画することで、行政研修の在り方を学びます。また、大学に戻ってこれらの振り返りや課題整理の討議、あるいは複数の教育委員会における研修の在り方を比較検討してフィードバックを受けます。

… 現職院生の実習 …

実践課題研究テーマ

実践課題研究テーマは「子どもの『考えて書く力』の育成-生活科・総合的な学習の時間と国語科を連動させた授業の展開-」です。これまで国語や生活科・総合の授業が好きで興味を持っていました。小学 1 年生のスタートカリキュラムの実践を行った時に、体験や経験を通して児童が意欲的に学び、いきいきと豊かに表現する姿を見て、すべての子どもたちにも発達段階に応じた、体験や経験に基づく単元計画によって、楽しく効果的に学べるのではないかと考えたことがこのテーマに至った理由です。

教職大学院の実習

学部段階の教育実習とは違って、自分の研究テーマに沿った実習計画を作成しなければならないので、自分にできるのか心配でした。ただ、これまで勤務していた学校で実習することができると、研究を通して担任として見てきた学校現場を違った角度で見られるようになることは楽しみでもありました。

実際の実習はとても充実した時間でした。全学年全クラスに 2 年間通じて授業の企画や実践ができたので、小学校担任としての関わりだけでは得られない、学校全体としての児童の学び、成長を実感することができました。また、学校の課題にじっくり向き合い、全ての教員とも関わって校内研修を進めることができたのも、実習として時間を確保することができたからこそだと思います。

学校実習を通して児童の書く力の向上、教師の授業改善が成果として得られました。このことから、見出された「考えて書く力」を育成する授業の 3 要素を活用し、今後も実践に励んでいきたいと思っています。修了後は、勤務校であり実習校であった小学校で再び学級担任として勤務することができましたので、教職大学院での学びを校内研修や学級経営に役立てながら堺市の子どもたちのためになる教育活動を行っていききたいと考えています。



姫野 涼子さん
平成29年3月修了
堺市小学校勤務

● リフレクション・ミーティング (RM)

リフレクション reflection の意味は、熟考、内省、黙想、反省、再考、回想などです。すなわちリフレクション・ミーティングとは、過去と現在を見つめ、未来の行動や指針をつくる活動 (ふりかえり) のことです。リフレクション・ミーティング (RM) には、個別 RM、コース RM、全体 RM があります。特に学校実習科目や課題研究科目では、指導教員と個別に、またコース単位で、そして院生と教員全体で確認するためのリフレクション・ミーティングの機会を大切にしています。



全体 RM ポスターセッションの様子

実践課題研究

● 実践課題研究とは

2 年次の実践課題研究では、受講生は、まず教職大学院における 1 年次での学びの成果を整理することを通じて、実践的な研究課題に対する問題意識とそれに対する取組みをどのように発展させてきたかを省察していきます。そして、それをさらに追究し、どのようなアウトプット (実践課題研究報告書) として仕上げるかに関して、計画を策定し、遂行していきます。

その過程において、受講生は、課題解決のプロセスを R-PDCA サイクルに基づいて自己点検・評価するとともに、学校や教育委員会のスタッフ等とのコミュニケーションの中で相対化し、それらを通じて、自らの実践的な研究課題の解決を学校や地域が抱える教育課題の解決とつなぐ意識を強めていきます。

● 実践課題研究テーマ例

実践課題研究のテーマとして、例えば次のようなものが考えられます

【学級経営や学習指導】

- ・子どもとの円滑なコミュニケーションのための言葉がけのガイドブックの作成
- ・授業のユニバーサルデザインの留意点の整理
- ・家庭学習の充実に資する『学習の手引き』の開発
- ・協働学習の手法を活かした授業改善の好事例の収集と整理
- ・授業における ICT (タブレット型端末や電子黒板等) 活用の普及方策の検討
- ・活用型学力の向上をめざした授業の設計・実施・評価のマニュアルの開発
- ・若手教師のためのいじめ防止チェックリストの作成

【カリキュラム】

- ・基礎基本の徹底のための放課後学習プログラムの開発
- ・今日的なキャリア教育のための単元開発
- ・情報モラル教育のカリキュラム開発
- ・小学校教師の外国語活動の指導に役立つ指導プランの作成
- ・総合的な学習の時間の「学校としての全体計画」の策定
- ・逆向き設計による授業の設計と評価を導入するための手引き

【教員の学びの組織化】

- ・授業力向上のための校内研修や行政研修の企画・運営マニュアルの作成
- ・公開授業や研究発表会の企画・運営マニュアルの開発
- ・若手教師を指導するメンターのためのチェックリストの開発
- ・小中学校の連携のための実践的コーディネーションの手引きの開発
- ・学校の危機管理に関する校内研修のプログラム開発
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の他職種との協働を実現するための研修プログラムの開発

【学校改革とそのためのリーダーシップ】

- ・学校改革プランの作成とスクールリーダーが果たす役割
- ・学校診断評価の基準作成と実践を通じた検証
- ・授業評価システムを生かしたアクションリサーチによる授業改革
- ・学校と家庭・地域の連携協力のための実践事例集の作成と活用
- ・学校経営の継承の在り方とその実践事例集の作成
- ・学校ホームページの作成と運用のためのガイドブックの作成

平成 28 年度修了生の実践課題研究報告書要旨については、大阪教育大学連合教職実践研究科のホームページにも掲載しておりますので、ご覧ください。

<https://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~kyoshoku/youshisuyu/>



…学部卒院生の実習…

実習校の先生方への感謝

温かい先生方と子どもたちに出会い、かけがえのない 2 年間になりました。今振り返ると、未熟な自分にとっては「背伸びし過ぎの研究テーマ」を持って実習に臨んでいました。理想に実力が追いついていない自分に対し、実習校の先生方は豊富な経験に基づいて温かくサポートをしてくださいました。また、研究以外の部分でも、研究授業の前日に夜遅くまで授業の練習に付き合ってくくださったこと、クラスの子どもたちへ温かい思いを持って全力でぶつかる姿を見せてくださったことなど、忘れられない出来事がたくさんあります。

現在自分が教壇に立ち、ボランティアの方に教室に入っていたくともあるのですが、実習当時、実習校の先生方がどれだけ自分たち実習生にさらけ出してくれていたのか、今になって感じています。実習校の先生方には感謝の気持ちでいっぱいですし、先生方の姿が、今の自分にとって目標の 1 つになっています。

実践課題研究のテーマと実習の成果

テーマは「ARCS 動機づけモデルを生かした小学校授業のデザイン - 自信の要素に着目して -」です。学部時代から、学力だけでなく「意欲」や「自信」といった目に見えない力を育むことに興味がありました。とはいえ、見えない力にどのように働きかければいいのかについては漠然としていました。所属していた寺嶋先生のゼミを通して「意欲」や「自信」を育む授業デザインの手法について学びを深めたことで、漠然としていた部分が具体的にになっていく実感を得ることができ、実習を通して挑戦してみようと思いました。

実習を通して、授業の中で児童の「自信」を育む糸口が見つめたように感じています。実践課題研究で学んだことを生かして、授業を通して、自分の成長を実感でき、仲間の成長を喜び合い、それらを「自信」に結びつけることが出来る活動や、学級の雰囲気を作っていきたいと考えています。また、実践課題研究を通して学んだ、実践を検証、改善し、再び実践するというアクションリサーチの手法は、「教師」として「教室」で教育実践を進めるにあたって今後も大切にしていきたい姿勢です。

はじめての勤務校では尊敬できる先生方と優しい子どもたちに恵まれました。まだまだ周りの先生方に助けていただいていたばかりの日々ですが、少しでも教職大学院で学んだことを子どもたちのために生かせるように今後も努力を続けていきます。



篠原 幸太さん
平成29年3月修了
高槻市小学校勤務

教職大学院における取組み・取得可能な免許状

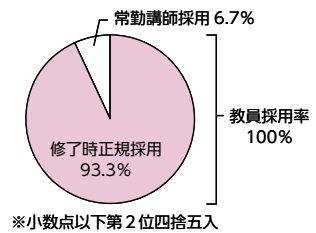
学部卒院生

● 教員採用率 100%を達成！

教員採用試験を全力バックアップ！大きな結果を残しています。

本研究科では、平成 29 年 3 月 24 日に初めての修了生が誕生しました。そのうち、学部卒院生は 15 名であり、その 100%が春から教壇に立っています。

このことは、学部卒院生が、教育実践者に求められる高度な専門職としての資質と能力をあらゆる授業を通して身につけるとともに、「教員採用試験対策講座」や全教員による個別の指導のもとに実現しました。



● KSG100（教員採用試験合格 100%）

学校現場で実践的かつ高度な資質をもったスクールリーダーとして力を発揮するために、教育実践力開発コースの学生を対象に実施している「教員採用試験対策講座」です。修了時に「教員採用試験合格 100% (KSG100)」をめざし、受験の支援を行っています。具体的には筆答試験（一般教養・教職教養）対策、面接（集団面接・個人面接・模擬授業）対策、教員採用試験受験に関する相談等を実施しています。



私が本気で教員をめざそうと決意したきっかけは、学部時代の教育実習でした。そのため、学部時代には教員採用試験の受験経験がなく、教職についての知識も全くありませんでした。そんなスタートの遅かった私でも、大阪教育大学の教職大学院に入学し、KSG100 を受講したことで、無事に教員採用試験に合格することができました。

KSG100 で一番魅力的なのは、やはり面接指導と模擬授業対策です。教職経験が豊富な先生方が熱心に指導・助言して下さるので、回数を重ねるごとに自信がついてきます。小さな疑問や不安にも丁寧に答えて下さる先生方の存在は、精神的にも非常に大きな支えになりました。

この春からは、教職大学院で学んだことを活かし、大阪の教育の更なる発展に貢献していきます。



上垣内 崇裕さん
愛媛大学工学部卒
大阪府高等学校勤務

● 学部開設授業科目履修許可制度による副免許の取得

一定の条件を充たすことで、本研究科在籍中に学部の科目を修得することにより、副免許を取得することもできます。

※本制度は、副免許の取得を保障するものではありません。教職大学院の授業時間（教職大学院の講義は基本的には夜間に開講されていますが、実習等昼間に実施されるものもあります）に抵触しない範囲で、柏原キャンパスでの受講となります。また、諸般の事情により、受講が許可されない場合があります。なお、教育実習・教職実践演習は対象外となります。

私は高等学校の教諭を志望していたため、学部のときに高等学校教諭一種免許状（理科）のみを取得しました。教職大学院に進学し、今後の自分の可能性をさらに広げるため、中学校の免許状の取得に必要な「化学実験Ⅰ」、「生物学実験Ⅰ」、「地学実験Ⅰ」を M1 のときに受講しました。教職大学院の授業との両立が大変でしたが、いつ何を取るかを自分でしっかりと考えることで、うまく受講をすることができました。

高等学校において、理科は物化生地に分かれて授業が実施されます。しかし、相互に関連している部分が多くあり、むしろ実際に社会で応用されている科学は一つの科目の知識だけでなく、複雑に絡み合っていることの方が多いと私は感じています。今まであまり勉強していなかった科目の知識や実験手法を学ぶことは、自分の専門科目以外の授業をする際に役立つのはもちろんですが、「生徒に科学というものをより深く教える」ということにつながります。



水口 翔太郎さん
関西大学システム理工学部卒
大阪府高等学校勤務

取得できる教員免許状～多種多様な校種・教科の専修免許状の取得が可能～

大阪教育大学連合教職大学院では、学部卒院生・現職院生の幅広いニーズに対応できるよう、多様な校種・教科の専修免許状を習得することができます。

※なお、本研究科に入学するためには、入学時に必ず 1 つ以上の一種免許状を取得している必要があります。

●専修免許状とは…専修免許状とは、一種免許状（学部を卒業することで取得できる免許状）を基礎にして、大学院で所定の単位を修得し、修了することで取得できる免許状です。

現職院生

● 指導主事錬成プログラム

教育の変革期である現在にあって、教育改革の確かな情報を伝えるとともに、それぞれの学校の課題解決に資するものを明確に示し指導助言することが指導主事に求められる使命となっています。このような使命をもった指導主事の働きが変わることで、各自自治体の教育が変わります。

指導主事錬成プログラムは、教育委員会や教育センターで仕事をしている指導主事および、今後指導主事として仕事をしていく意思のある現職教員を対象に、互いに学び高めあう時間を提供するものです。



私は、朝から夕方まで指導主事の仕事を、夜は大阪教育大学連合教職大学院の院生として学びました。入学理由は、これまでの指導主事の経験や知識を教職大学院での取り組みを通して学び直したいと考えたからです。

指導主事の仕事は多岐にわたります。本プログラムでは、私と同じように業務と学びの両立をめざしている仲間とともに、指導主事の仕事を俯瞰し、指導主事として必要な力は何かを先生方のご支援をいただきながら学びます。本プログラムを通して、お互いの研究テーマを基盤にしながら、教職大学院のネットワークを活用し、さらに先を見据えた学びに取り組むことができます。また、他の教職大学院との交流もあり、「学びのつながり」を広げることができます。

2年間の学びはハードな部分もありますが、仲間との交流を通して自己を見つめ、鍛えられる貴重な機会です。



佐古田 英樹さん
平成29年3月修了
堺市教育委員会勤務

● 各種教職大学院プロジェクトへの参画

教職大学院では、毎年さまざまなプロジェクトを進めています。例えば、平成28年度には、学力向上実践の好事例収集・活用プロジェクト、グローバルティーチャー養成プログラム開発プロジェクト等を実施しました。現職院生の多くがこれら教職大学院ならではのプロジェクトに参画し、新たな知見を獲得、教育現場に還元しています。

【学力向上実践の好事例収集・活用プロジェクト】

大阪府の小中学校の子どもたちの学力は、他の都道府県に比べると、依然として課題を抱えています。子どもたちの学力を高めるための営みに、マニュアルはありません。教員が指導のレパートリーを増やし、それを状況に応じて利用することが望まれます。このプロジェクトでは、現職教員である教育実践コーディネートコースの大学院生が、全国学力・学習状況調査で好成績を残している、学力向上実践に長けた学校を訪問し、その工夫点を抽出・整理します。また、所属校にそれらを導入する構想を練ります。プロジェクト参加者は、全国各地の学力向上の取り組みを目にして、学力向上実践のイメージを膨らませていました。



学校現場訪問時の様子

胡 精吾さん（現職院生・大阪府教育センター勤務）

教員として大阪府外の学校で授業や取組を参観することは、自身の実践研究において大きな学びとなります。しかし今回、このプロジェクトに参加した一番の理由は、このプロジェクトが教職大学院の授業「校内研修のマネジメント」で学んだ理論を生かす機会になると考えたからです。このプロジェクトを通して、どのような取組が子どもたちの学力向上に効果があるのかを探り、大阪（とりわけ自身が勤務する学校）でも活用できる取組を見つけることができました。例えば、和歌山県の小学校では学力向上プランを作成し、その取組の一つに「授業の工夫としてのノート指導」がありました。これは1年生から6年生までの指導の一貫性を高める取組としても効果を上げています。このプロジェクトに参加して、自身の実践課題研究のテーマでもある幼小接続において、「学びをつなぐ」という中に「指導の一貫性」という新たな視点を広げることができました。

- 取得できる免許状…幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、英語）、高等学校教諭専修免許状（国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、工業、英語、情報）

※取得しようとする免許状の一種免許状を有していることが必要です。

- その他

修業年限：2年（ただし、現職教員等の履修の便宜等に配慮して、長期履修学生制度（修業年限3年）を用意しています。）

修了要件：2年以上在学し、履修基準に示す所定科目を46単位以上取得することが必要です。

学 位：教職修士（専門職）の学位が授与されます。

在学生・修了生の声

谷口 太一さん（学部卒院生・関西学院大学理工学部卒）

入学以前、教育実習を初めとする学部時代の経験を通じて、自分の理想とする教育を実現させるためには今のままでは力不足だと感じていました。そんな時、教職大学院の体験授業に参加させていただき、ストレートマスターの方と現職教員の方が教育について熱く語り合う様子を目の当たりにしました。その様子に刺激を受け、自分もここで学びたいと強く感じ、教職大学院への進学を決意しました。



教職大学院の授業には、先生方からご教授いただいた理論を踏まえた上で、グループワークを通じてさらに深く考える時間が積極的に取り入れられています。その際、現職の方の知識や経験、実際の勤務校における事例などを伺うことができるのは、私たちストレートマスターにとって大変貴重な時間であり、新たな発見や気づきの連続です。また、授業内外問わず、院生同士で互いに意見を出し合ったり、模擬授業を評価し合ったりするなど、日々切磋琢磨し、互いを高め合っています。

授業で学んだ「理論」や、仲間同士の意見交換で得られた「気づき」は、各 semester で実施される学校実習などで実践でき、まさに「理論」と「実践」の往還が実現する理想的な環境です。今後も同じ志を持った仲間と共に、自分の理想とする教育を追究していきたいと思っています。

森崎 章代さん（現職院生・堺市教育センター勤務）

連合教職大学院に通って一番の宝は、「異文化との出会い」です。それは、人や書物との「対話」です。

講義やゼミ等、院生同士や大学教員との意見交換の場は数多くあります。さまざまな校種の学ぶ意欲の高い人との意見交換は、新鮮で大きな刺激です。また、教育や教職に関するより多くの文献を読むことでも見方考え方が広がっていき、今までぼんやりとしか捉えられていなかったものの輪郭が、少しずつですがはっきりしていくのを感じています。私の研究課題は、「組織的・継続的な校園内研修」の実現に役立つ、経験の浅い担当者でも研修を効果的に進められる助けとなる「研修の進め方ガイドブック」の作成です。そのためのアイデアを含めて、堺市の教育課題解決のための考え方や、事業を効果的に展開するための方策を大学院での学びから得ることができています。

河上 弘子さん（平成 29 年 3 月修了・大阪府教育庁勤務）

中学校の教員としてより、教育委員会での指導主事として勤務の方が長くなっています。支援教育や生徒指導、教科指導、学校再編整備などに携わる長い教育行政生活のおかげで、さまざまな人と出会い、たくさんのことを学び、いろいろな経験値を得てきました。

とはいえ、これらを発信するとなると、単なる経験上の感想や説得力に欠いた思い出話に終わってしまいがちです。「実践と理論の融合」このキーワードに惹かれ、「働きながら学ぶ」世界に飛び込みました。想像以上に大変な 2 年間でしたが、先生方の丁寧なご指導のもと仲間とともに何とか乗り越えることができました。

関西大学・近畿大学から進学し、修了した先輩の声

河内 美緒さん（平成 29 年 3 月修了・香川県観音寺市中学校勤務）

連合教職大学院の強みは「壁がない」ことです。現職の先生方や学部を卒業したばかりのストレートマスターが同じ教室で学び、同じ目線で議論します。現場での経験がない私たちにとって、ベテランの先輩方から現場の生の声が聴けることはとても貴重であり、なかなか経験できることではありません。もちろん経験の有無や考え方の違いは常に付きまといますが、その違いの集合体こそが連合教職大学院を形作っているのです。

また、それぞれが異なる研究テーマを持ち、安定したフィールド（実習校）において理論と実践を往還しながら学びを深められることも魅力の一つです。どんな実践研究においても、研究に協力してくださるフィールドが必須ですが、非常にありがたいことに、私たちは既にそのフィールド獲得の条件をクリアしています。もちろん、自分の実習校以外にも、希望すれば国内外や校種を問わず、様々な教育現場に訪問することができます。

現在、香川県の中学校で教員生活一年目を送っていますが、私の場合、2 年間かけてフィールドを「知る」という過程が、現場で大きく生かされています。学校実習でさまざまな経験をさせていただいたことで、学校という組織の構成や、教員間の連携の仕方がおおよそ見えてくるのです。多忙な学校現場ゆえに、初任者ならではの不安はありますが、こうした視点は仕事を進めるうえでの安心感につながっています。

連合教職大学院で得た知見は、家庭訪問や生徒指導の場でも役立っています。限られた時間で生徒や保護者が求めているものを把握するのは本当に難しいですが、傾聴の姿勢を基本に、生徒の声なき声を拾おうと、日々努力しているところです。現場に出てからも学び続ける教員をめざす私たちにとって、この 2 年間は今後の自らの在り方を考えるよい機会となりました。「学ぶ楽しさ」を身をもって感じられたと思います。



森 慎也さん（平成 29 年 3 月修了・大阪府高等学校勤務）

大学 4 回生の頃、自分に足りない教師力を漠然としか把握しておらず、本当に教員になることが出来るのかと悶々とした日々を送っていました。そんな中、恩師や家族の言葉がきっかけとなり、確かな教育実践力の習得を目指して、連合教職大学院に進学することを決意しました。

連合教職大学院では、大学時代とはまったく異なる環境の中、まさに「自分を煮詰める」ことが出来ました。特に、研究者教員と実務家教員という違った立場の教授陣から指導を受けることが出来たこと、現職の先生方が抱く現場生活での価値観に触れることが出来たこと、この 2 点が自分を大きく成長させてくれました。その中でも「どうすれば皆と上手に人間関係を築けるのか」という素朴な疑問を追求する中で応用心理学と出会い、自己理解・他者理解スキルを深めることが出来たことは、自分にとって最も大きな財産になりました。そうした理論に基づいたスキルを、実践を通して磨き上げられることが連合教職大学院の最大の魅力です。「理論と実践の往還による深い学びの修得」が特徴である連合教職大学院で教師力を高めることが出来たからこそ、「自分なりの武器」を備え教壇に立つことが出来ています。現在、私は幸運にも、2 年間学校実習でお世話になった大阪府立柏原高等学校で教員生活 1 年目を迎えることが出来ています。初任者ですが気持ちは 3 年目、自分に出来ることが何なのか、常に悩みながら 3 年生の副担任をしています。

様々な場面で「これで良かったのか」「どうすれば生徒の人生が充実するのか」を考えていますが、答えは出ません。しかし、そんな時こそ自分の実践研究を思い出し、踏ん張ることが出来ています。実践研究に打ち込んだ 2 年間の学びを土台に、これからも「どうすれば皆と上手に人間関係を築けるのか」を常に考え続け、日々精進していきたいと思っています。



岩崎 千佳さん（現職院生・大阪教育大学附属平野小学校勤務）

附属の研究部として、学校全体の研究を進める中で、自分たちの研究を本当に子どもたちにかえるものとするためには何ができるのか、考えることが多くなりました。自分自身知らないことが多く、研究を進めるためにも、もっと理論からしっかりと学びたいと思っていたそんな時、教職大学院への内地研修という制度を知りました。ここに通われていた先輩方は、口を揃えて「授業に必要性があり、楽しい!」とおっしゃっていました。



現場で教員として子どもと向き合いつつ、夜にはまさに今必要としている内容について学べる。大学院に通う今、この言葉の意味がよくわかります。授業を受けた翌日には、見えるものが変わってきます。そんな日々の実践と学びのつながりを感じ度、ここで学べる機会をいただけたことに幸せを感じています。

「子どもに始まり、子どもにかえる」、そんな研究を、学校全体として行っていきたい。

自分自身が学ぶことによって、子どもたちが変わる。学校全体の教員皆が一つの研究に向かって、学び続け、一丸となって取り組む姿、それは必ず子どもたちにかえていくはず。学びを創り続ける教師のもとで育つ子どもたちは、必ず学びを創り続ける子どもになるはず。そんな教師集団の研究をコーディネートしていくためにも現場を代表して大学院でしっかりと学びその学びを現場に子どもたちにかえしていきたいと思っています。

松田 善行さん（現職院生・大阪市小学校勤務）

教員になって10年が経ち、教務主任や研究部長など、学校組織にとって影響力のある立場になるようになりました。また、中堅として後輩教員に仕事を教えたり、アドバイスしたりする場面も増えてきました。しかしそれらは、これまでの実践や経験、ときには勘を頼りに行うので、的確とは言い切れない場合もあります。

そこで、理論を学び実践力を高めたいと考えるようになりました。本大学院では、様々な分野の研究者教員と実務家教員が指導されるので、幅広い専門的知識や理論、そして実践力を得られることを期待し入学を希望しました。入学にあたり、大阪市の制度「がんばる先生支援大学院キャリアアップ派遣研修」で職務を免除していただけることになりました。大学院での学びや自分の研究に専念できることになりました。期待通り、講義による学びにより、これまでの経験が整理できたり、ミドルリーダーとして学校組織を高めていくための様々な視点や考え方を得たりすることができ、実践課題研究では職務免除を活かし自分が研究したいテーマについて時間をかけて追究することができています。教師としての力量を高め「専門職としての教員」として学校をさらに魅力的にできるよう学んでいきたいと考えています。

當銘 真衣子さん（現職院生・大阪市教育委員会勤務）

教職について14年目を迎えますが、大学院で学ぶことで、教員として自分の未熟さを改めて思い知ることとなり、気持ちを改める良い機会となりました。日々の職務と研究実践・講義との両立は本当に大変ですが、先生方やともに学ぶ仲間と過ごすこの2年間の経験は、きっと今後の自分にとって大きな力になると確信しています。そして、大学院で得た学びを実践し、未来ある子どもたちに還元していきたいと思っています。

津村 桃子さん（平成29年3月修了・堺市小学校勤務）

私にとって教職大学院で学んだ2年間は、かけがえのない時間になりました。教育に本気で向き合う気持ちを持った仲間と共に学び、また自分が理想とする「学び続ける教師」の姿を目の当たりにする機会は、なかなか他の場所ではありません。

学校現場は、教育実習で見える以上に多くの課題を抱えています。そして本教職大学院には、それを解決しようと努力している人が多くいます。そのような人々の姿を見て学び、また自分自身も研究を通して、課題を解決する方法を模索することができます。

私は、通常学級に在籍する特別な支援を要する児童に対するアプローチについて研究しました。表面的には楽しい授業であっても、それが本当に全員にとって楽しく、そして学びのある授業であるのか、疑問に感じていたからです。実際に研究を始めると、自分では予想もしていなかったような子どもの「困り感」が見えてきました。そして学校実習では、そんな多くの困り感を持つ子どもに対するアプローチを、担当の先生の指導、そして教職大学院での講義やゼミを通して、実践的かつ理論的に学ぶことができました。

今、実際に教壇に立ち、困り感を持つ子どもがいかに多いかを実感しています。教職大学院での学びがなければ、子どもたちが抱える困り感に目を向けることすらできなかったでしょう。指導力はまだまだ未熟ですが、教職大学院で学んだ手法を指導に取り入れることで、子どもたちの学びの深化に日々努めています。



山本 健太郎さん（平成29年3月修了・大阪府支援学校勤務）

大学に在学中、教育学部ではなかったこと、自らに教員として働いていくための知識が不足していると感じたこともあり、より専門的に「教育」の分野について学びたいと思い、教職大学院という道を選びました。

説明会に参加した時から、大阪で初の教職大学院ということもあって、先生や事務の方たちから大阪の教育を発展させたいという熱い思いを強く感じていましたが、実際に入学してみると、研究者教員・実務家教員と先生の数が多く、生徒一人一人をしっかりと見て、丁寧な指導をしていただきました。

在学中は子ども達のことを真剣に考える仲間に出会ったことがとてもよかったと思います。それぞれが自分の考えを持ち、他人の意見に耳を向け、議論し合うことができ、そこには年齢や立場は関係なく、みんなが子どものことを考えていました。また、授業を通してカリキュラムや探究的な学びの作り方、カウンセリングの方法など教育の様々な分野の実践的な学びができたこと、学校組織の枠を超えての適応指導教室や、義務教育の枠を超えたオルタナティブスクールでの実習といった多様な実習による体験を通じて、今ある教育の在り方や、これからあるべき教育への展望について考えることができたこともよかったです。

現在は東大阪支援学校で勤務していますが、教職大学院では特別支援教育について学ぶ機会も多く、ある授業ではインクルーシブ教育について考えるために、その授業の中で附属特別支援学校での実習を行ったり、また別の授業では、教育学研究科から特別支援教育をご専門とする先生を招いて講義をしていただいたりなど、それらの授業で学んだことを実際に支援学校の現場で勤務しながら実践につなげていきたいと考えています。



修了生インタビュー

戸出 克彦さん

(平成 29 年 3 月修了 大阪府教育センター勤務)

1. 入学のきっかけは？

私が大阪府教育センターで指導主事をしていた平成 26 年 12 月に、当時の所長から「平成 27 年度に開校する教職大学院に行き、2 年間の研究を経て成果物を持ち帰ること。これが平成 27 年度から 2 年間の業務です」と告げられ、入学をしました。

2. 入学されてみてよかったことは？



教職大学院に入学してよかったことは、この年齢（40 代）になってから「学び直し」ができた、ということです。

大学院の講義を受けて多くの内容を教えていただく中で、自分が持っていた知識や経験を整理することができましたし、沢山の新たな知識を得ることができました。同時に、教員として学校現場にいたときも指導主事として教育委員会にいたときも、限られた知識と経験に頼って仕事をしていたことに改めて気づくことができました。教職に就いた後ある程度の年数を経てから学び直せたことで、「学び続ける教員」であることの重要性を体感することができたと思っています。

3. 教職大学院での成果は？

大学院での研究テーマは「小中連携・一貫教育の推進のための支援ツールの開発」でした。これは、小中連携や一貫教育に取り組み始めたあるいはこれから取り組もうとしている学校に向けてその取組がスムーズに進むよう支援するためのツールです。この支援ツールを開発できたことが、私にとっては教職大学院で学んだ 1 番の成果だと言えます。

この研究を進める中で得た経験は、もちろん現在の職務に生かされることが沢山あります。例えば、PDCA サイクルを回すということやエビデンスを重要視するということが等です。これらについては、研究に取り組む中で指導教員である木原教授からくり返しご指導いただいた内容です。

私が現在関わっている業務の中で大きなウェイトを占めているのは、法定研修である初任者研修を企画・運営していくことです。

PDCA サイクルについてですが、初任者研修は秋ごろから次年度の研修内容についての企画検討を重ね、1 月頃に内容を決定させ、4 月のスタートを迎えるものです。この準備を含めると 12 カ月間を超える取組の中に PDCA の節目を今以上に明確に位置付けることで、年度内であっても研修の内容を発展・充実させていけるような取組を仕掛けられるのではと考えています。

また、エビデンスについてですが、初任者研修に関しては受講者アンケート等いくつかの指標で研修評価を測定する体制が整っています。初任者研修は、関係校の校長先生や指導教諭たち、関係市町村教育委員会、そして受講者本人たちの理解と協力があってはじめて成り立っています。データから見える初任者の姿を関係者に適切に示すことは、理解と協力を得るのに効果的な手段となるに違いありません。今あるデータや指標をさらに活用していけるように仕掛けられるのではとも考えています。

恥ずかしい話ですが、私は教職大学院に通うまで PDCA サイクルやエビデンスという言葉を知っていたものの、それを明確に意識して何かに取り組むということはあまりありませんでした。このことだけを見ても、教職大学院の 2 年間で得た経験は現在の業務に生かせるものであったと言えます。

4. 現在のお仕事は？

先に少し触れてしまいましたが、教職大学院を修了した後、4 月からは大阪府教育センターの企画室という部署で、主任指導主事をさせていただいております。自分の主な業務としては、小・中・高等学校の初任者研修を実施したり、幼児教育に関わる業務に携わったりしています。先の質問で大きなことを答えていますが、経験豊富な指導主事たちと協働しながら日々奮闘しているのが現状です。また、幼児教育について自分の知識は乏しいので、毎日の業務をこなしながら幼児教育についての知識も増やしていかなければならないという状況です。

5. 在学中の楽しかった思い出は？

これは、教職大学院に来る前の指導主事時代には想像できないくらいの、沢山の人たちと友人になれたということです。例えば、指導主事仲間を見ても、教職大学院に来る前も大阪府内の市町村教育委員会の指導主事たちや大阪市・堺市の指導主事たちと知り合う機会がありました。ですが、それはあくまでも業務として話をするだけであって、知っている人というレベルでしかありませんでした。しかし、教職大学院で共に学ぶ中で、同じ釜の飯を食う者同士というか、実際

に大阪市・堺市・豊中市・四條畷市・寝屋川市・伊丹市の指導主事ばかりか、三重県教育委員会の方とも院生仲間として仲良くなることができました。もちろん現職教員の方たちやストレートマスターの院生たちとも、幅広く親交を深めることができたという点で全く同じです。

さらに嬉しいことに、教職大学院での同窓生たちが業務で大阪府教育センターに来られると、わざわざ企画室まで私を訪ねて来てくださったり、新規採用された同窓生たちが初任者研修に来られると、私をみつけて声をかけにきてくれたりするのです。教職大学院に在学中にあった楽しい出会いが、大学院修了で終わるのではなく、これからも続いていくことがとても嬉しいです。

また、自分の研究に関連して大阪府外のあちこちで開催される研究発表会に行き、当該教育委員会の指導主事さんと名刺交換をして知り合いが増えていったのも、在学中の楽しい思い出ですね。昔の知り合いが当該の教育委員会にいて偶然再会したということもありました。

6. 教職大学院に来ていなかったら経験できていなかったと思うことは？

これは、私にとっては柏原キャンパスに関係することですね。

先にも触れましたが、自分の研究テーマが「小中連携・一貫教育の推進のための支援ツールの開発」であったので、教職大学院2年目の前期に、これに関する知見を得ようと柏原キャンパスで開講されている「小・中一貫教育概論」という授業を受けさせていただくことができました。そしてなんと、この講義を持たれている岡田教授のご厚意により後期にはこの「小・中一貫教育概論」にT2として関わらせていただくことができたのです。

元々が小学校教員である私にとっては、大学生相手に授業をするなんてことは、全く予想もしなかったことでした。教職大学院に通ったこと、研究テーマを小中一貫教育に関することに定めたこと、そして柏原キャンパスでの講義を受講できたこと等々いろいろな偶然が重なって、たった半期とはいえ大学生を前にして授業ができたことは、本当に貴重な経験だったと思います。

正直なところ、自分の研究内容が学部生の学びに役立つとは思いませんでした。しかし、岡田教授が私の研究を活用してくださることで、私の研究が学部生たちの学びの一助になったことは、教職大学院生として本当に嬉しいことでした。この他に、多くは将来教員になるであろう彼らがどのような考えをもち、またどのような力を備えているか等を、前期では共に履修する者同士として、そして後期では授業者として見ることもできたのも、本当に貴重な経験でした。



7. 最後に、教職大学院への進学を考えていらっしゃる方へのメッセージをお願いします

教職大学院の魅力を三つ紹介したいと思います。

一つ目は、【高いレベルで学べる】ということです。この教職大学院では、研究者教員と実務家教員による、チームティーチングの授業が数多く取り入れられています。このように協働で授業を提供していただけることで、授業の内容が机上の空論になることなく実践的なものとなっています。また、夜学のメリットを生かして、教職大学院での学びと勤務先あるいは実習先での実践がすぐに往還することができます。特にいつも教える立場に立っていた現職教員にとっては、教職大学院で教わる立場に立つことができ、その学びを実際の業務に活かすことができます。教職大学院は「学び続ける教員」が集う場であると言えます。

二つ目は【最高の仲間に出会える】ということです。教職大学院生には、指導主事や現職教員もいれば、ストレートマスターもいます。そして、それぞれの校種も様々です。しかし、現職教員の方たちは皆さん素晴らしい実践を積み重ねられている方たちばかりでしたので、その知識やご経験がとても勉強になりました。そしてストレートマスターの方たちからは、教育に対する高い理想と学ぶ意欲にとっても刺激を受けました。教職大学院は、共に切磋琢磨しながら学べる貴重な場であると言えます。

三つ目は【立地条件が良い】ということです。この教職大学院は夜間の大学院なので、通学や学修が時間的にしんどいかもしれないと不安な方も多いと思います。実際のところ、身体が慣れるまではしんどいです。しかし、この天王寺キャンパスは素晴らしく便利な立地条件にありますので、大阪府外から通われている院生が何人もいらっしゃいます。この教職大学院は、働きながら学ぶのには申し分ない環境にあると言えます。

教職大学院への進学を考えていらっしゃる皆さん、どうぞ安心してください。この教職大学院は皆さんの不安を払拭し、私がそうであったように実り多い2年間を提供してくれるに違いありません。学部生の方はより確かな専門性を身に付けるため、そして現職教員の方はより深く学び直すため、どうぞ安心して教職大学院の門を叩いてください。

宮本 尚輝さん

(平成 29 年 3 月修了 大阪府立高石高等学校勤務)

1. 学部時代に教員採用試験に現役合格後、教職大学院に入学をめざした思いは？

約 40 年間の教師人生をスタートする前に、現場とは異なった場で専門的に教育について学ぶ 2 年間があってもいいのではないかと考えました。数学を専門とし、それに加え教育について学ぶ 4 年間の学部時代を過ごしましたが、教育について学ぶうちに「もっと専門的に教育のことを学びたい」という思いを抱くようになりました。そんな私ですから、大阪教育大学で新しく教職大学院ができることを知ったとき、ここで学びたいと強く思ったのを覚えています。その後、学部 4 回生の夏に受験した大阪府の教員採用試験で合格をいただくことができたのですが、そうした思いもあったため採用辞退制度を利用して教職大学院に進学しました。

2. 教職大学院での成果は？

大学院での実践研究テーマは「生徒の学習意欲を高める授業づくり」でした。この実践研究を進める中で得た「ARCS 動機づけモデル」や「自己決定理論」、「内発的動機付け理論」といった理論的な枠組みは、自らの教育実践への応用だけでなく、現場の先輩教員の教育実践のよさを理解する上でも役立っています。この 2 年間の大学院での学びの中で、教育実践者にとってこれは本当に大事なと思った教育実践におけるポイントがいくつかあるのですが、それらを一つも外すことなくきっちり押さえた実践をされている方が現在の勤務校にいます。子どもたちの力を高いレベルで引き出し、教職員にも信頼されている方でした。その方の実践におけるどの要素がそうした子どもたちの姿を実現させているのかということは、学部卒業時の自分には見抜けないと思います。

3. 現在のお仕事は？

数学科教諭として、高校 1、2 年生の生徒を相手に数学の授業に向き合う日々です。それ以外にも副担任、部活の副顧問、校務分掌の教務としての業務に携わっています。忙しい教員 1 年目ですが、大学院での 2 年間の経験のおかげで「何をどうしたらいいかわからずに困る」ということは少なくなっていると思います。また、「こんな実践をしてみたい」という構想がいくつもありますが、やりたいことが多すぎてまだ実践できていないこともあります。この 2、3 年でぜひとも実践したいですね。



4. 教職大学院に来ていなかったら経験できていなかったと思うことは？

フィンランド・イタリア海外教育実習での 2 週間の経験です。海外の子どもたち相手に英語を使って授業をし、現地の教育現場を見て回り、また大学での講義も受けるという貴重な経験ができました。このプロジェクトでは、半年かけて 3、4 人で一つの授業を作り上げていくのですが、この授業を CLIL (クリル) という教授方法で行います。CLIL は Content and Language Integrated Learning (内容言語統合型学習) の略語で、内容 (社会や理科などの教科ないしは時事問題や異文化理解などのトピック) と言語 (実質的には英語) の両方を学ぶ教育法です。CLIL では、Content (内容)、Cognition (認知)、Communication (コミュニケーション)、Culture (文化) という、4 つの C が授業を構成しています。この CLIL 授業実践を経験し、アクティブラーニングのよさを私自身が知れたことは、今後教員として生きていく上での私の財産だと思っています。数学教員志望としては、英語での授業実践に苦労しましたが、おかげで他教科連携の在り方の一つを知ることができたと思っています。

※「フィンランド (EU) 海外教育実習 2016 (フィンランド・イタリア) 報告書」は、教職大学院ホームページに掲載されています。

5. 最後に教職大学院への進学を考えていらっしゃる方へのメッセージをお願いします

私が学部時代に教師塾でお世話になった指導主事の方から伝えていただいた言葉にこんな言葉があります。「(教育において) およそすべてのことは学べ、身に付けることができます。」という言葉です。校長を経験され、長年教育に向き合ってこられた方が、教員を目指す人に向けて伝えて下さったメッセージです。この 2 年を振り返って思うのは、教職大学院における最大の学びは、「経験から学ぶことに加えて、他者の実践や理論・研究からいかにして学ぶのか」という教育実践研究の進め方・手法を学ぶことであったように思います。「およそすべてのことは学べ」という言葉にある「学ぶ」為の具体的な手法のレパートリーが増えたことが、5 年 10 年と経ったときにじわじわと効いてきて役に立つと思っています。

そして、教育において「実践に学ぶこと」「理論・研究に学ぶこと」の双方に意義があると、大学院を修了した今、私は確信を持っています。もし、皆さまが院に進学した際には、実践研究テーマや指導教員などさまざまな要因によって、どちらに比重を置くことになるかは変わってきますが、どちらを軽視してもいけません。教職大学院の院生がすべきは「研究」でも「実践」でもなく、「実践研究」です。絶えず自分がどちらか一方に偏り過ぎていないかを確認しつつ、実践研究に向き合ってもらえたらと思います。1 期生の私たちとは違い、これから教職大学院への進学を考えているみなさんには先輩がいます。進学後の自分と同じ立場であった先輩が試行錯誤してまとめた報告書を参考にすることが出来ます。1 期生はじめ各代の先輩の実践研究からも学び、それを超えるような素晴らしい実践研究がなされることを願っております。

研究者教員

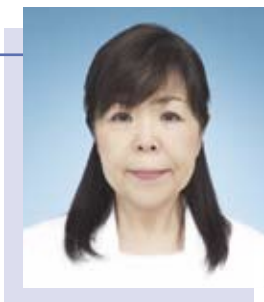


秋吉 博之 (Hiroyuki Akiyoshi) 教授

専門は理科教育学、特に理科教材開発、授業研究、国際教育協力に関して実証的な研究を行ってきました。日本での実践的な理科教育研究の実績を踏まえて、アフリカで現職理科教員研修事業に参画しました。最近の研究課題は理科指導力育成です。単著に『理科教員研修の指導と評価－ケニア理科教育強化計画での実施－』、編著に『実験で実践する魅力ある理科教育－小中学校編－』『実験で実践する魅力ある理科教育－高校編－』などがあります。教職大学院では、理科教育、国際教育協力に関する講義や演習を担当します。

家近 早苗 (Sanae Iechika) 教授

生徒指導・教育相談に関する授業を担当します。これまで私は、小学校教諭、児童自立支援施設厚生教官、スクールカウンセラー、大学教員として児童生徒・学生と関わってきました。その中で、学校や教師の力、実践のつよさを実感しています。これから教師をめざす方、すでに教師として教職に従事している方が、専門職としてより高い実践ができるような子どもへの指導や援助について一緒に考えていきたいと思います。研究については、子どもの力、教師の力、学校の力を活かすシステムについて関心をもっています。



柏木 賀津子 (Kazuko Kashiwagi) 教授

第2言語習得理論 (SLA)・小中連携の英語を専門としています。小学校教諭・教育委員会・海外の教育機関を経験し、スペイン在住時に日本とヨーロッパの英語教育の違いを目の当たりにして SLA 実証研究を始めました。教職大学院では、子どもが音声から英語を学ぶ際の SLA を踏まえ、年齢や認知発達に合致した授業について共に深めたいと思います。CLIL (内容言語統合型学習) と PISA 型学力への関心から、フィンランド海外教育実習にも取り組んでいます。論文“How CLIL classes exert a positive influence on teaching style in student centered language learning”等

木原 俊行 (Toshiyuki Kihara) 教授

教育方法学・教師教育学専攻。国内外の様々な地域の学校を訪問し、たくさんの教師と協働して、授業研究を通じた教師の成長、校内研修の充実による専門的な学習共同体の成立と発展を理論的・実践的に追究しています。主書に『授業研究と教師の成長』『教師が磨き合う学校研究』『活用型学力を育てる授業づくり』など。教職大学院では、学校を基盤とするカリキュラム開発の進め方、校内研修の企画・運営やコンサルテーションに関する講義や演習を担当します。



寺嶋 浩介 (Kosuke Terashima) 准教授

教育工学アプローチによる教師教育、メディア教育を専門としています。授業では、「教師力と学校力」「教育研究方法演習」などを担当します。様々な経験から学ぶこと、人とのつながりの中で学ぶことを重視した環境を作っていきたいと思います。教育に関する知識や技術は書籍から学ぶだけでなく、自分で繰り返して体験することで身につけていくものです。また、それはいち個人で学ぶだけでなく、ともに学んでいくことで広がります。教職大学院には、大学院生も教員も多様な人が集まります。チームで学び、お互いを高め合えることを楽しみにしています。

富田 福代 (Fukuyo Tomita) 教授

教職の在り方を、国内外の教育実践、教育内容、教育制度を通して多角的に追究しています。研究分野は教師教育、カリキュラム研究、比較教育。担当科目は『専門職としての教員』『教師力と学校力』『教育研究方法演習』他。著書は『続教師教育の創造』『確かな学力と豊かな学力』他。社会活動として、教育委員会および文部科学省の専門委員他。教職大学院では、共に学び磨き合う活動を通して「学び続ける教員」の体現を支援し、成長する専門職をめざします。





庭山 和貴 (Kazuki Niwayama) 特任准教授

特別な教育的ニーズのある児童生徒への支援（特に発達障害支援）を専門としています。児童生徒の望ましい行動を伸ばすための行動支援について、これまで学校現場の教師と協働して実践研究を行ってきました。現在、数多くの実践研究によって、効果的な支援方法に関する科学的根拠（エビデンス）が積み重ねられてきています。このような効果が実証された支援方法について学び、それを目の前の子どもに合わせて柔軟に適用し、さらに支援が効果的であったか検証、必要であれば支援の改善を持続的に行うことを目指しています。

森田 英嗣 (Eiji Morita) 教授

教育工学専攻。社会的構成主義にもとづいた授業をつくりながら、その中で学習がどのように生じするかを、算数教育、メディア教育の分野で研究しています。著書としては、『学習社会・情報社会における学校図書館』『人権教育と情報・メディア教育のコラボレーション』『シティズンシップへの教育』等を、同僚や研究仲間と共につくってきました。教職大学院では、学習指導や評価の理論と方法に関する講義や演習などを担当します。



実務家教員



岡 博昭 (Hiroaki Oka) 教授

理科教育、化学教育が専門です。中学校理科の教科書を、20年ほど続けて執筆しています。また、化学の教材開発を行ってきました。公立中学校で2年間、附属天王寺中学校と附属高等学校天王寺校舎で33年間教員を続けました。そのため、数多くの教育実習生を指導してきました。また、附属高等学校天王寺校舎では、7年間副校長として学校マネジメントを行ってきました。特にSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の研究を学校として行ってきました。そのような経験を生かして、これからの学校教育についてみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

佐々木 靖 (Yasushi Sasaki) 教授 (大阪教育大学附属池田小学校校長)

大阪市立小学校を経て、平成9年から20年間、大阪教育大学附属池田小学校で教諭、副校長、校長として勤務しています。附属池田小学校において悲しい事件を経験した教員の責務として、事件の教訓を伝えるとともに、安全教育の在り方などを多くの人とともに考えていきたいと思っています。国立大学の附属小学校は教育実習だけではなく現職教員の研修の場でもあります。教員の授業力、学級経営力を向上させるために取り組んできた経験を教職大学院でも生かしていきたいと思っています。



田中 満公子 (Makiko Tanaka) 教授

教諭、教頭、校長として長年府立高校に勤務し、生徒の育成や学校経営にあたってきました。大阪府教育委員会にも勤務し、教育行政の経験も積みました。今、世界では教育の制度や仕組みが大きな変動期を迎えています。そんな時期だからこそ、大きなヴィジョンや情熱やハートとともに高度な資質をもった実践的スクールリーダーが求められていますが、院生の皆さんが将来学校現場で大きな推進力となることができるように実務家教員として支援していきたいと考えています。モットーは「共に学び、共に育つ」です。

中西 修一 (Syuichi Nakanishi) 教授

大阪府公立学校の教員として教員生活が始まりました。その後、大阪府教育委員会事務局勤務や管理職等を経験しました。教職大学院では、現職教員や学部卒の学生など教育に関して、熱い思いを持った多様な方々が集まっていたのと考えています。実務家教員の一人として、その思いに応えられるよう努力するとともに、これからの学校現場において中核を担う教員や管理職として成長できるようサポートしたいと思います。



深野 康久 (Yasuhisa Fukano) 特任教授

大阪府で高校教員や指導主事、校長などを経験して定年退職した後、平成 24・25 年に大阪教育大学夜間大学院で学校経営を中心に学びました。働きながら学ぶことの厳しさと楽しさを体験するとともに、自らの実践を離れて真摯に学び、そして再び実践に戻る、研究知と実践知の往還の難しさも知りました。教職大学院では、主に現職教員の方々とともに学校の活性化やマネジメントについて考えていきたいと思っています。



福永 光伸 (Mitsunobu Fukunaga) 教授 (大阪教育大学教職教育研究センター)

私は府立高校の英語教員としてスタートし、府教育委員会（当時）、文化情報センター、私学大学課、府立高等学校長として学校現場や教育行政の立場から教育に関わってきました。「21 世紀型能力」と呼ばれる資質や能力を子どもたちにどのように身につけさせるか、家庭や地域と一体となって、「チーム学校」を構築するにはどうしたらよいか等、教育に携わる者として、皆さんとともに考えていきたいと思っています。



餅木 哲郎 (Tetsuro Mochiki) 教授

生徒指導、学級づくりに関する授業を主に担当します。私は、小学校教諭、教育委員会指導主事、教頭、校長として、子どもたちや教職員と力を合わせて学級づくりや学校づくりをしてきました。先行き不透明な時代であっても、確かな指針と新たな教育創造は学校現場での真摯な実践から生まれると確信しています。そして、教職大学院での学びは学校現場では得にくい広い視野と新しい実践のヒントを与えるものです。教職大学院が開設され間がありませんが、ここで学ぶ学生の成長ぶりに驚きと喜びを感じています。



山手 隆文 (Takafumi Yamate) 准教授 (大阪教育大学附属天王寺小学校副校長)

専門教科は体育で、これまでにたくさんの授業研究を通して、「子どもが楽しい」と感じる体育の授業を追究してきました。そのためにも、技能面を重視した授業を大切にしています。これまで公立小学校を含めて、約 20 年子どもと関わり、授業をうまく進めるためには、学級経営の大切さも実感しています。そこで、子どもの指導や支援について、実践的な指導法と一緒に考えていきたいと思っています。教職大学院では、教科指導の実践的展開、今日的学力と実践的な指導に関する講義や演習などを担当します。



米津 俊司 (Syunji Yonezu) 教授

公立学校教員として学級経営、生徒指導、進路指導等の実践を積んだ。その後、大阪府等教育委員会で教育行政に携わった後、公立学校長として学校改革・学校経営に取り組んだ。その後、私立大学附属校の開設準備に携わり、中高等部初代校長として私立学校経営、ミドルリーダー育成に取り組み、現在は大学教員として教職課程を担当。教職大学院では、これまでの学校現場の実践、カウンセリングの経験等を踏まえ、今日的な学級経営のあり方や学校経営などについてともに学びたい。



入試関連データ・アクセス

入学試験の志願者・合格者・入学者数

(単位：人)

コース	入学定員	志願者数		合格者数		入学者数	
		28年度	29年度	28年度	29年度	28年度	29年度
学校マネジメントコース	5	4	2	4	2	4	2
教育実践コーディネーターコース	10	16	12	14	10	14	10
教育実践力開発コース	15	25	30	18	21	16	20
計	30	45	44	36	33	34	32

入学に関するスケジュール

●入学希望者説明会

第1回：平成29年7月8日（土）

第2回：平成29年9月30日（土）

入学希望者を対象とした説明会を天王寺キャンパスで開催します。

教職大学院の専任教員が全体説明やコース別説明、個別相談に応じますので、気軽に参加ください。

●出願期間 平成29年10月30日（月）～平成29年11月2日（木）

●入試実施日 平成29年11月18日（土）

●合格発表 平成29年11月24日（金）

●入学手続期限 平成29年12月11日（月）

※上記入学試験で定員に満たない場合は2次（3次）募集を実施する場合があります。

教員採用試験の採用候補者名簿掲載期間の延長について（大阪市）

大阪市の教員採用試験で校種「小学校」及び「中学校」の第2次選考で合格と判定された人が、教職大学院に進（在）学し、教職大学院の修士課程修了後の採用を希望する場合は、採用候補者名簿掲載期間を最長2年間延長することができます。

※詳細については大阪市の教員採用試験の要項をご確認ください。

入学科・授業料の額

●入学科 …………… 282,000円

●入学時諸費用 …………… 50,000円

●授業料（年額）…………… 535,800円

※上記金額は、平成29年度入学者の金額であり、平成30年度入学者については変更される場合があります。

※在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

天王寺キャンパスへのアクセス

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-88

JR天王寺駅、地下鉄天王寺駅、近鉄大阪阿部野橋駅下車、徒歩約10分。

JR寺田町駅下車、徒歩5分。



教職大学院の年間行事予定

4 April	健康診断 在学生ガイダンス 前期授業開始  【前期】目標達成マップ 実習計画書の提出	入学式・新入生ガイダンス 学部・他の研究科と 合同で入学式が挙 行され、終了後の 18時から、天王寺 キャンパスでカリ キュラム概要や教務日程、事務手続き等の説明 と、各コースごとのガイダンスが行われます。  KSG100の取組み開始 本学連合教職大学院で は、学部卒学生を対象に 「教員採用試験合格 100% (KSG100)」 をめざし、試験・面接対 策、受験に関する相談等の支援を受けながら教 員採用試験に挑み、高い実績をあげています。 	新入生合宿 授業が開始される前に、学修への理 解と見通しをもてるようにするた め、また、新入生の不安を取り除く とともに、これから大阪を中心と した地域の教育を担う連合教職大学 院生としてのアイデンティティ形成 のきっかけとなるように新入生合宿 を行っています。 また、アイスブレイク等を通じて院生 同士や教職員と院生の相互理解を深 めることも大きな目的のひとつです。 例年忙しい時期ではありますが、現職教員学生、学部卒学 生ともに多くの方が参加し充実した2日間を送っています。  
5 May			学校実習の様子 (教育実践力開発コース) 
6 June			
7 July			
8 August	前期授業終了・試験 夏期集中講義	教育実践フォーラム 平成 29 年 3 月に輩出した初の修了生に対し、 修了後の研究活動の支援や在学生との親睦を 深めることを目的に、実践課題研究の発展的 研究や実際の学校現場での研究の活用例を発 表する機会を設けることを予定しています。	前期全体 RM (リフレクション・ミーティング) 院生が自らの実践課題につ いて口頭発表、ポスター セッションを通じて他の院 生との相互交流を行い、そ れぞれの経験や課題を共有 する省察の場です。 また、実習等でお世話になった教育委員会関係者や実 習校の先生方もお招きする、大規模なイベントです。 
9 September			
10 October	後期授業開始 	【後期】目標達成マップ 実習計画書の提出	フィンランド・イタリア海外実習 (特別プログラム)    実践課題研究報告書題目の提出
11 November			
12 December			学校実習の様子 (教育実践コーディネートコース)  実践課題研究報告書の提出
1 January	特別プログラムガイダンス 2 年次では学校実習の一部に、子どもの教育に関わる多様な現場を体験し、今後 の教育実践の知見を広めるための特別プログラムを充てることができます。1 年 次末にはその説明会が開催されます。		
2 February	後期授業終了・試験	後期全体 RM (リフレクション・ミーティング) M2 生にとっては教職大学院での 2 年間の実践研究の成果発表の場 ですので、今まで以上に熱意をもって発表していました。また、次年度入 学予定者も招待し、教職大学院の雰囲気を感じていただきました。 最後のセレモニーでは、各コースの優秀な報告書の作成者に、優秀教育実践 研究賞が授与され、表彰された学生は自身の研究内容の発表を行いました。  	実践課題研究報告
3 March	学位記授与式 平成 29 年 3 月 には、本学連合 教職大学院初の 修了生を輩出し ました。 	教職大学院で過ごす 2 年間は 瞬く間に過ぎていきますが、 ここで築いた仲間との絆や高 度な実践力は、修了後も長く 続いていく教員人生において 必ずや心強い財産となります。 	

※年間行事は平成 28 年度の実施内容をもとに記載しており、変更される場合があります。

大阪教育大学
(天王寺キャンパス)

西館
B 中央館
C 東館・図書館
D 体育館
E 附属天王寺中・高

陸橋
河合塾
YMCA
正門
公園
グラウンド

北口
JR 天王寺駅
天王寺 MIO
地下鉄天王寺駅
近鉄 大阪阿部野橋駅
あべのハルカス

地下鉄谷町線
JR 環状線
JR 阪和線
JR 関西本線
地下鉄御堂筋線

URL <https://osaka-kyoiku.ac.jp/rengokyoshoku/index.html>

